

かなやま じんくらぶ

金山のまちのリーサーとZINE制作プロジェクト

「かなやまじんくらぶ」は、一般公募によるゼミメンバー、まちなかワークショップに参加された市民のみなさん、学生やアーティストと一緒にZINEを制作するアートプロジェクトです。

約3か月の間、私たちは何度も金山のまちに出かけ、地域の方と知り合ってお話を聞く中で、金山のまちの成り立ちを知り、お気に入りの場所を見つけ、愛着を感じたり、思い出を作ったりしてきました。

アーティストと一緒に制作したさまざまな技法の版画だけでなく、イラストや文章など、みなさんが自分の得意な方法で、それぞれの金山を表現したZINEがこのたびできあがりしました。ガイドブックには載っていない金山の魅力をどうぞお楽しみください。

〈活動期間〉2024年6月～11月 〈活動エリア〉名古屋市金山地区一帯

かなやまじんくらぶ

THE RECORDS OF MAKING (Y)OUR ZINE

Contents

- 企画監修の服部浩之さんによるおはなし
- かなやまマップ
- 活動の記録(ゼミメンバー、建築チーム、まちなかワークショップ)
- かなやまアンケート「かなやまのこと、どう思ってる?」
- 参加アーティスト 山口麻加さん、嶋崎出さん、河部圭祐さんのページ
- インタビュー「かなやまの達人に聞く!」
- ゼミメンバー取材によるオハ
- お世話になったみなさん

主催 | アートリンク金山実行委員会
(名古屋市、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、公益財団法人名古屋市文化振興事業団)

—「アートリンク金山」とは

現在、新たな劇場の整備やアスナル金山の再整備を核としたまちづくりに向けた検討が進められ、芸術によるさらなるまちの活性化が期待されている金山の未来を共に考えるきっかけとして開催する取り組みです。「かなやまじんくらぶ」のほか、名古屋の主要ギャラリーが揃う新しいアートフェア「NAGOYA ART COLLECTION 2024」トークセッションなどを実施しました。

かなやま
じんくらぶ

1979-83

展開の
「げり」

かなやまじんくらぶがはじまるまで

世の中はますます複雑になり、出来事の仕組みを理解するのはとても難しい。イスラエルやパレスチナで起こっている悲惨な争いについて、その複雑な因果をどれほど知ることができるだろうか。原発による大きな災害が発生した日本で原発が再稼働することについてどれくらい理解が及ぶだろうか。どちらもとても複雑だ。ただ、だからそれについては考えないとか、自分の身の回りのことだけをやろうというのも、なんだか短絡的で思考停止気味でよろしくない。

自らの手で未来を築くという大それた感じが、ほんの小さな自発的なアクションで変わることも少くはないかもしれない。複雑に絡み合った社会だからこそ、個人の自律した思考や行動が何らかの変革を誘発する可能性があるはずだ。

小規模出版物やZINEは昨今ますます多彩になっているが、それはZINEが社会に自発的なアクションを投げかける表現のかたちのひとつだからかもしれない。ZINEをつくり流通させることは、ヨーゼフ・ボイスが提唱した未来の社会の形成に寄与する社会彫刻であり、その実践者はすべて芸術家であると言えるだろう。ZINEは、頁数や形式などすべて自由で、一人だけでも記事の作成から印刷まで完結することができる。そして誰かが作り手にも受け手にもなりうる双方向性もある。プロフェッショナルであることよりは、むしろアマチュアリズムが推奨され、DIY感覚が歓迎される。そしてマスメディアではなく、オルタナティブメディアであることで、制作者の意思を直接的に社会に投げかけることができる。自律的で自由な表現を一人でも多くの人が実践することで、社会は多少なりともましになっていくに違いない。

そんな前提のもと、金山のまちで、金山に暮らす人や生業を営む人にアプローチしたいというクリエイティブ・リンク・ナゴヤの意図を受け取って、まちや人と出会うことそのものが創作へと直結し、なおかつ特別な技術がなくてもできる表現の実践として金山のZINEをつくる「かなやまじんくらぶ」という活動が導き出された。

服部浩之

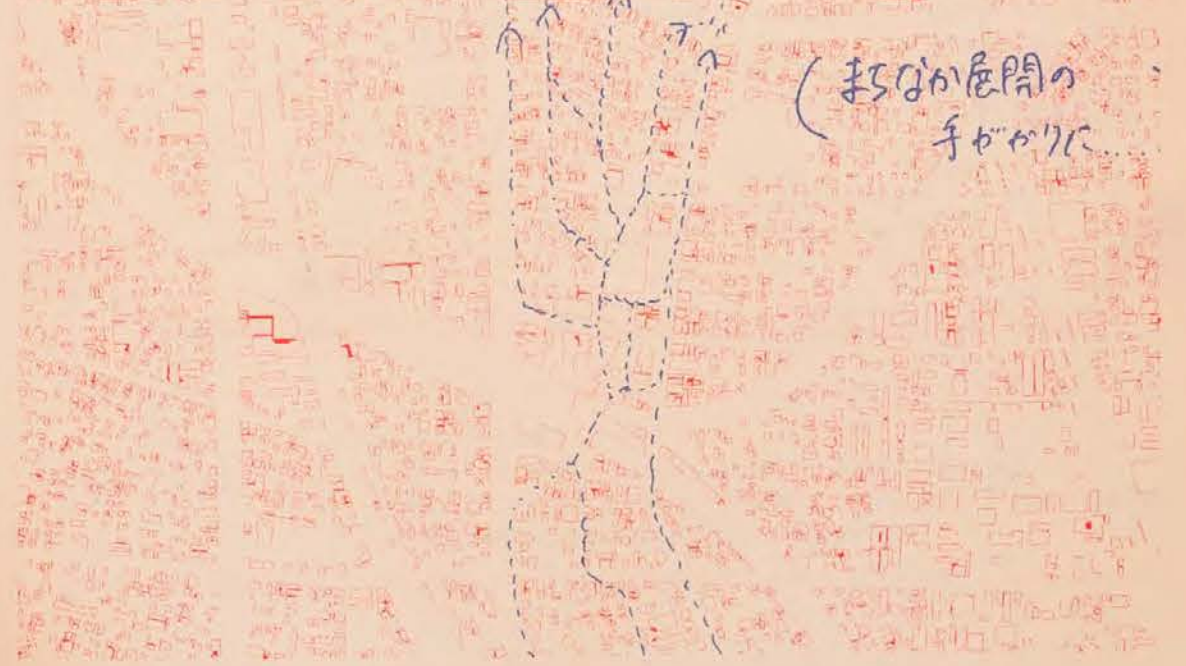
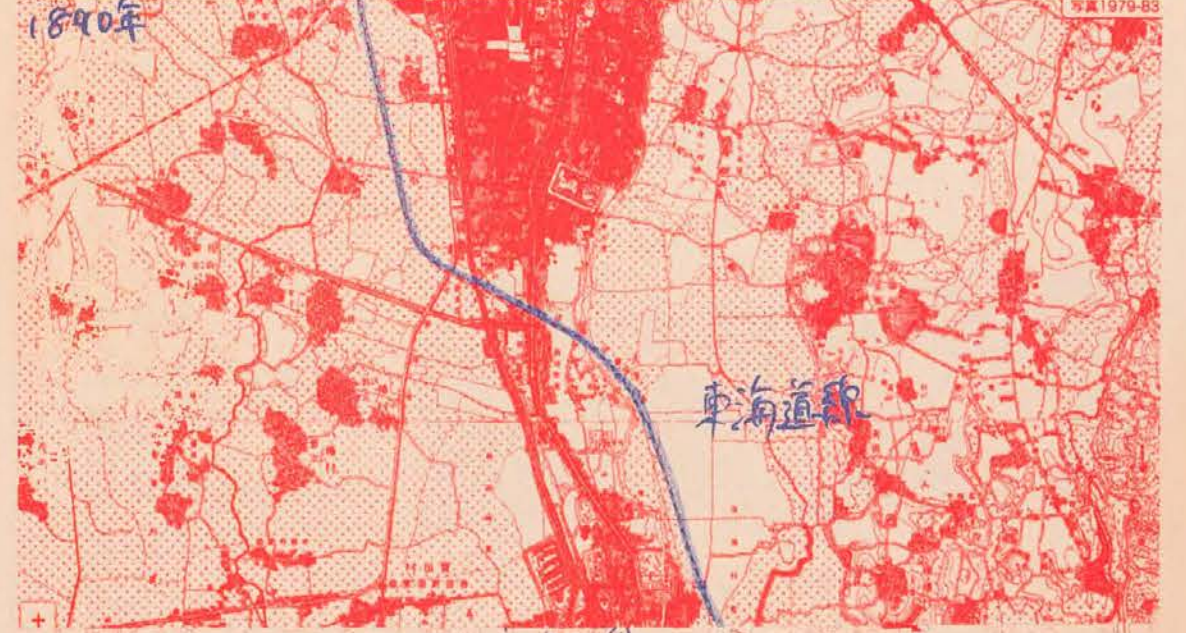
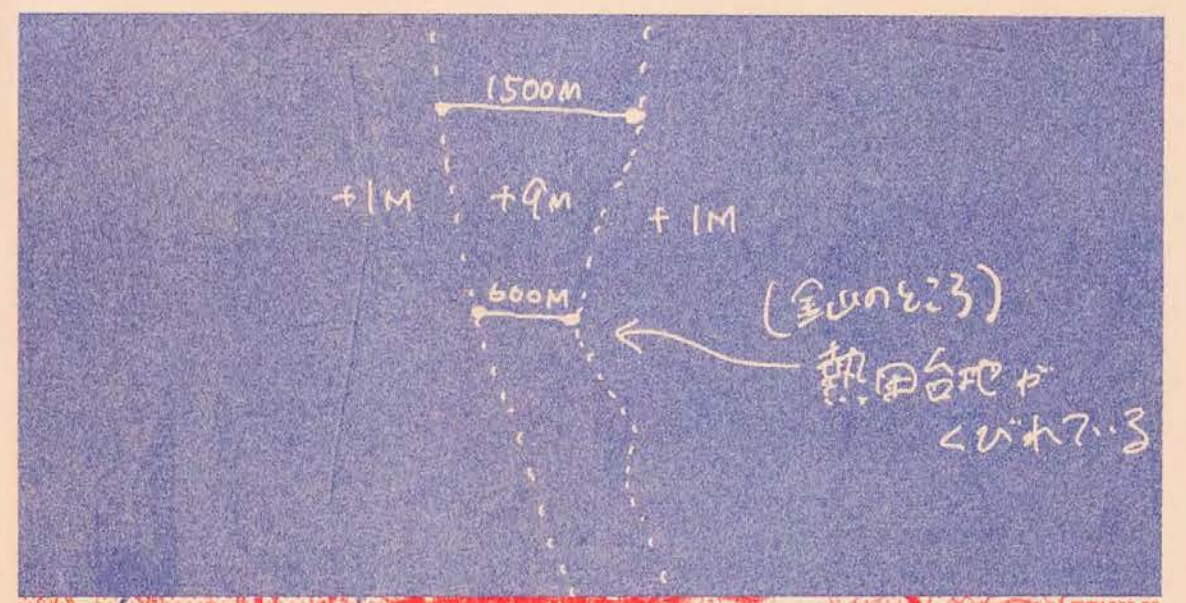
3)
地が
くびれ7.3

写真1979-83

屋開の
手ばかりに...

かなやまじんくらぶがはじまるまで

[Faint, illegible text on the left page of the notebook]





(ゼミ活動1)

かなやまを彩る

嶋崎出



このゼミで使用した手法はモノ・スクリーンプリント。未製のスクリーン上に色々なインクを任意の場所に乗せ、スクイジで刷り取ります。通常のスクリーンプリントでは出来ない、一度のプリントでの多色表現が可能です。ただしモノの意味の通り同じものは一度しか出来ません。
当日は、事前にメンバーに撮影してもらい、リソグラフで青一色印刷しておいた金山の写真の上に、透過性のあるインクでモノプリントを施しました。またクレヨンを用いて本来そこに無いものやテキストもスクリーンを通してプリントすることで金山に対する自身の具体的なアイデアも折り込むようにしました。

(ゼミ活動2)

まちの キーパーソン達の 話から 大判情報誌オハ をつくる

嶋崎出



まちのことを深く知るためにはそのまちを深く知る人に聞くのか一番ということで、ゼミメンバーが3チームに分かれて金山のキーパーソンに会いに行きました。一人は私達のホームスタジオである妙香園の田中社長、もう一人はTOUTEN BOOKSTOREの古賀さん、そして観音寺の坪井さん。インタビューした内容をまとめるための手本として、メキシコの大衆版画であるオハのスタイルを参考にしました。それぞれのチームがメンバーの能力を生かして編集して、リソグラフ印刷された大判情報版画で、金山の深いところをお楽しみください。

かなやまじんくらぶ日記

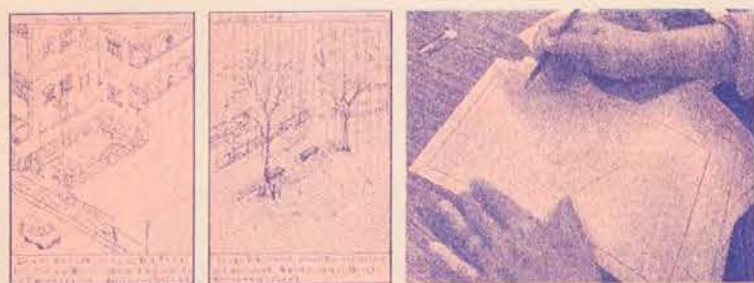
2023年秋～2024年春頃

CLNパイロット事業として金山のまちづくりとアートの連携アイデアが出る
名古屋市担当部局さん、名古屋まちづくり公社さん、金山駅前まちそだて会さん、服部さん、山口さん、嶋崎さん、河部さんなどに相談したり、協力をお願い

(ゼミ活動3)

お気に入りの場所を図解する

河部圭祐



メンバーが金山のまちなかでお気に入りの場所を見つけ、その魅力を他の方にも伝えられるようにZINEをつくりました。

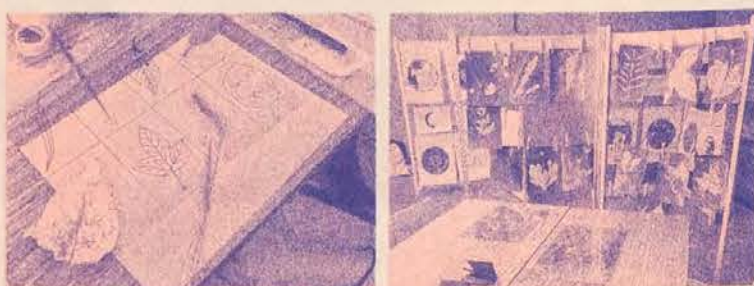
1. お気に入りの場所の画を描くにあたり、実測を行います。長さは、メンバーそれぞれの歩幅をあらかじめ測っておき、歩数との掛け算で求めます。高さは、測りたいものの隣に立って他のメンバーに写真を撮ってもらい、身長との比較で求めます。
2. 実測したサイズをもとに、立体的な画を描きます。アイソメトリック[※]という図法で、お気に入りの場所で観察したものを描き込みます。
3. お気に入りの場所に「名前」を付け、場所の説明とお気に入りのポイントを文章で書きます。

※アイソメトリック図法：対象を斜め上から俯瞰したように描写する投影図

(ゼミ活動4)

サイアノタイプでつくる「金山の植物図鑑」?

山口麻加



サイアノタイプ(青写真)は19世紀に発明された青色が特徴的な写真技法です。世界初の女性写真家とも言われるイギリスのアンナ・アトキンスがこの技法を用いて制作した植物の記録集[※]を手本に、金山に生息する「植物」をサイアノタイプで記録しました。金山のまちを歩くなかで、長年に渡ってその場に在り続ける大樹や、都市の変化にあわせてしなやかに生態系を変える草木など、さまざまな植物に出会いました。制作者の「植物」へのまなざしを通して、今現在の金山というまちの一つの側面が見えてくるかもしれません。

※「Photographs of British Algae: Cyanotype Impressions」Anna Atkins (1843年)

かなやまじんくらぶ日記

2024/6/12 Wed. 服部さんと参加アーティスト3名、初顔合わせ@TOUTEN BOOK STORE ●河部さんの金山リサーチ資料を見る

2024/6/21 Fri. 羽物屋いとうさんにTOUTEN BOOKSTOREでお話をうかがう

(建築チーム)

金山の小さなオープンスペース

河部圭祐



まちは基本的に道路・駅前広場・公園などのパブリックスペースと、住宅などのプライベートスペースからできています。しかし、実際に金山のまちを散策してみると、パブリックともプライベートとも言い切れない曖昧な場所がたくさんあることがわかりました。道路と建物の角度の違いによってできたスペース、熱田台地の地形や線路の影響でできた空地、不整形な街区にできた余白など、法的な土地所有は決まっているが見た目にはみんなに共有されているように見える場所です。これらの小さなオープンスペースは、現状でも小商いに使われていたり、たたずんでいる人がいたり、まちなかの居場所になっています。将来的にもまちの「にぎわい」や「ふところの深さ」といった魅力をつくる可能性を秘めていると考えます。エリア全体から探し出し、特徴的なものを図解しました。

(金山まつり)

まちを見わたす

山口麻加



ワークショップの会場となった金山南ビル11階は地上50mからまちを一望できる場所です。

子どもたちを対象に、この場所から見える景色をモチーフにして「ドライポイント」の技法で版画制作を行いました。パノラマの景色の中から好きな風景を切り取るように描くことで、子どもたちのそれぞれの視点が浮かび上がってきます。アクリル板に線を描いて、プレス機で刷り取るドライポイントの生き生きとした線も特徴的です。

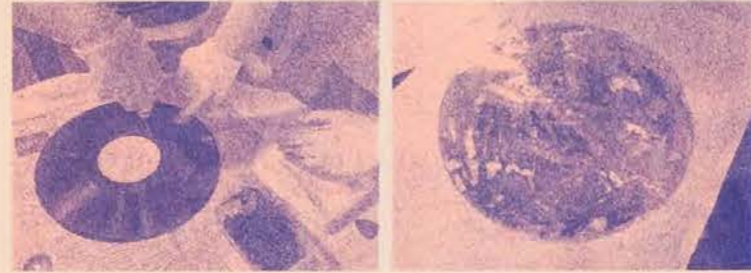
かなやまじんくらぶ日記

2024/7/1 Mon. プロジェクト名が「かなやまじんくらぶ」に決まる

2024/7/3 Wed. 金山商店街振興組合理事長の田邊さんにお話をうかがう ●田邊さん、金山アンバサダーの鬼頭さんと金山まち歩きリサーチ

(ブラジルコーヒー)
レコード版画を
作ろう

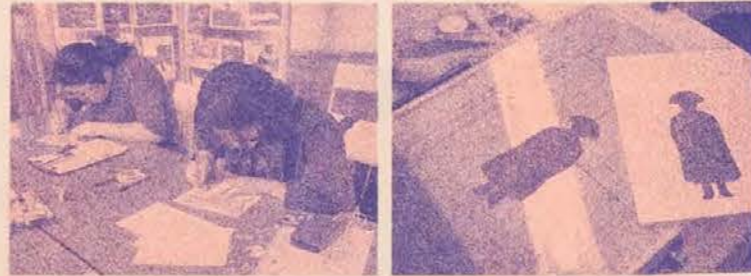
崎崎出



ブラジルコーヒーと金山は聞く人によってそのイメージが異なるという点で共通しています。そんなブラジルコーヒーは私たちにとっては、ライブスペースであり、ギャラリーでもあり、それでいてなお古風な喫茶文化を感じるお店です。ここでのワークショップではレコード盤（塩化ビニール）に刻まれた溝（音）を版画にする試みでした。「メディウム割がし刷り」という手法を用いて、もう聞かなくなったレコードの溝やカッティングされていない面（ラジオ用に片面のみカッティングされたレコード）にニードルで彫られたイメージをメディウム転写しました。こうした企画が喫茶店内で開催できるところにブラジルコーヒーのユニークさが現れています。

(大ナゴヤっアーズ)
KANAYAMA
OBJECTS

山口麻加



金山の南に位置する「妙香園 本店」から、北側の古沢公園までの道を歩きながら、まちに潜む面白い「形」を探し、「コラグラフ」の版画技法で「形」をプリントしました。まちを歩くと、建物や看板、モニュメントなど、さまざまな「形」が目に入ってきます。また、熱田神宮からほど近い金山ならではの「形」もたくさん見つかりました。ワークショップでは「コラグラフ」の技法を使って、まちで見つけた「形」を厚紙の版に作り変えました。版画制作の過程で抽象化されていく「形」は、むしろ実際の建造物への想像力を掻き立ててくれます。ワークショップを通してできあがった金山の「オブジェ」を集め、最後にZINEとしてもまとめました。

かなやまじんくらぶ日記

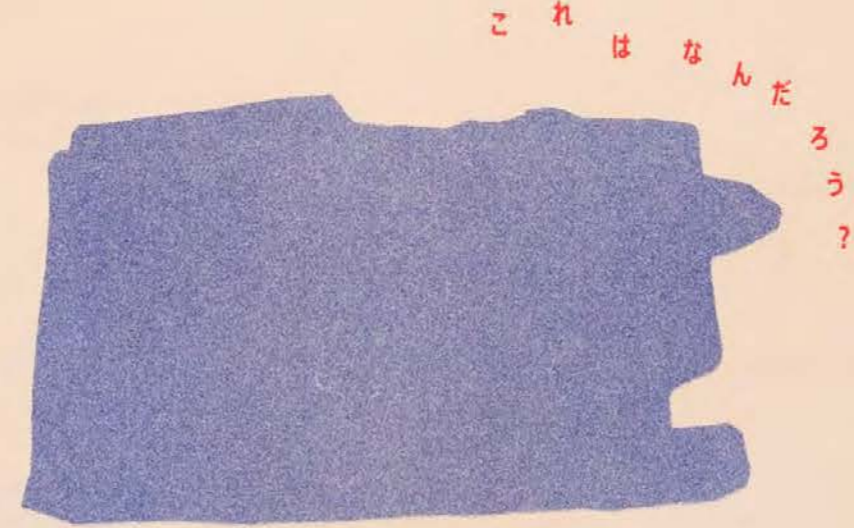
- 2024/7/8 Mon. ミーティング：リサーチの内容と出張ワークショップの設えについて
- 2024/7/9 Tue. 金山駅前まちそだて会定例会でアンケートを取らせていただく
- 2024/7/22 Mon. ミーティング：ゼミの内容がおおよそ固まる

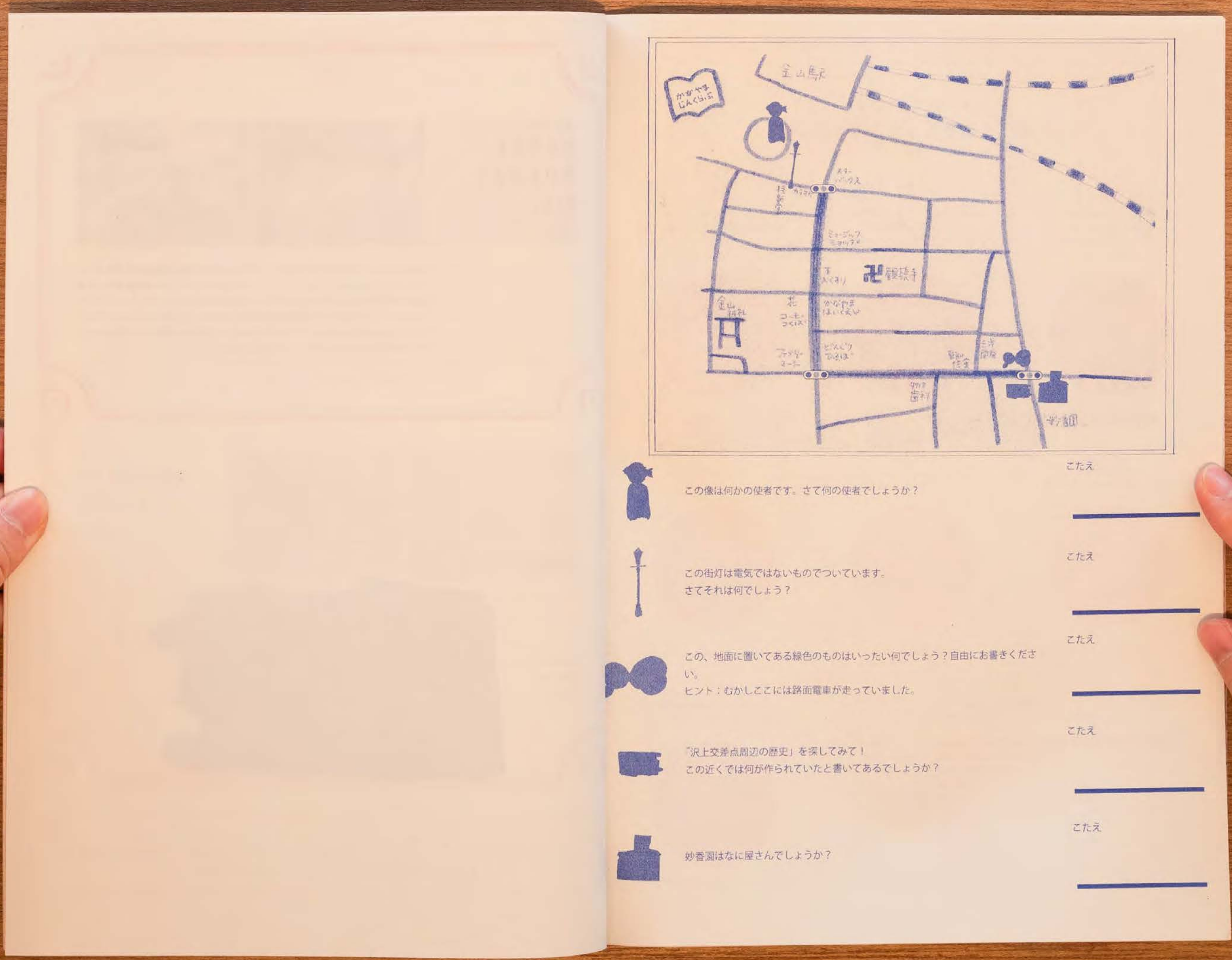
(金山マルシェ)
かなやまを
歩いてみよう

崎崎出

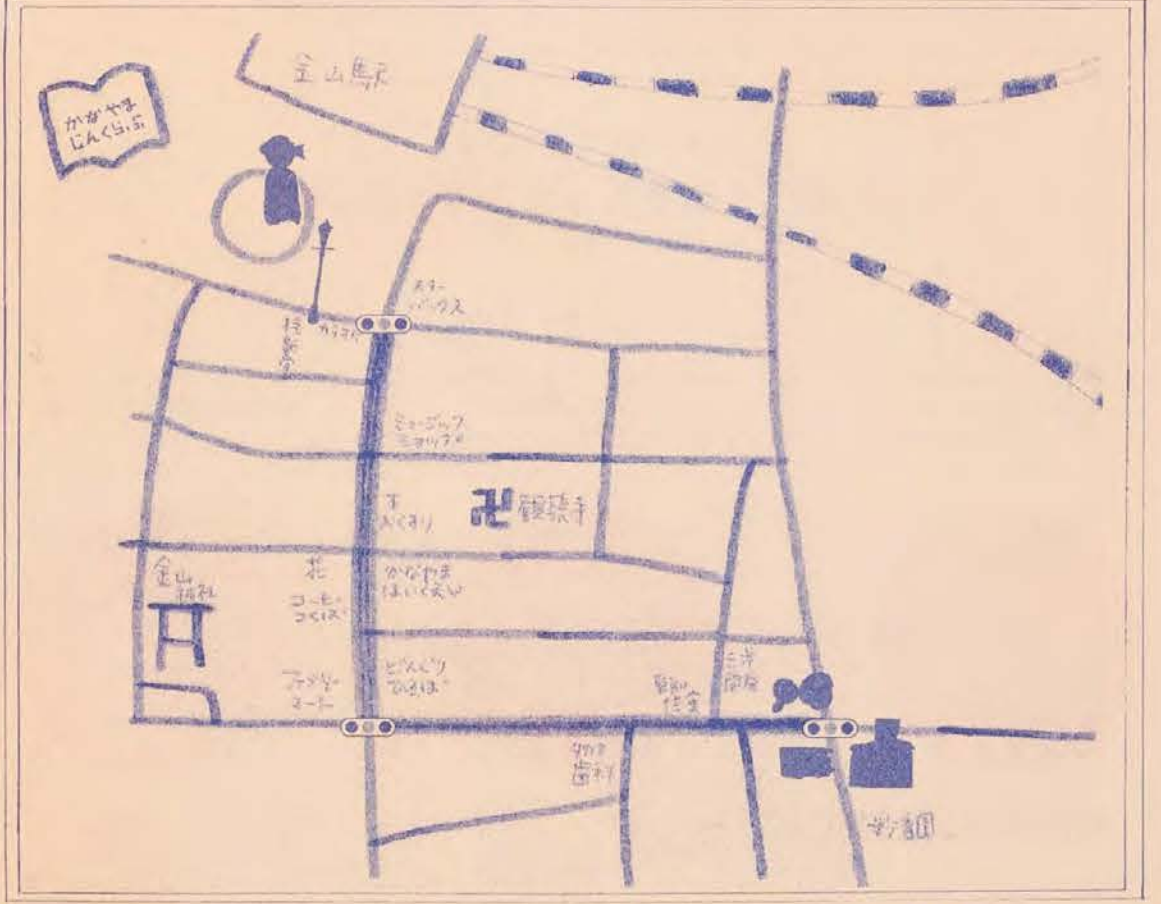


金山にぎわいマルシェは、お世話になっている金山商店街振興組合が主催するマルシェ。マルシェに来られた方へのワークショップということで、山口麻加が制作した金山のまちに潜む「形」の版画作品から逆にその場所を探し出すという、ちょっとしたオリエンテーリングと探し出せた場所の版画作品を製本し、持ち帰っていただくものとした。金山の駅から南のエリアという、普段は行くことのない場所ということもあって小中学生からお年寄りまで楽しんでいただけました。





かみやま
じんぐらふ



こたえ



この像は何かの使者です。さて何の使者でしょうか？



この街灯は電気ではないものでついています。さてそれは何でしょう？

こたえ



この、地面に置いてある緑色のものはいったい何でしょう？自由にお書きください。
ヒント：むかしここには路面電車が走っていました。

こたえ



「祝上交差点周辺の歴史」を探してみてください！
この近くでは何が作られていたと書いてあるでしょうか？

こたえ



妙香園はなに屋さんでしょうか？

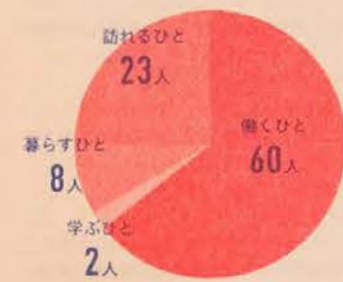
こたえ

かなやまアンケート
「かなやまのこと、どう思ってる？」

(N=87)

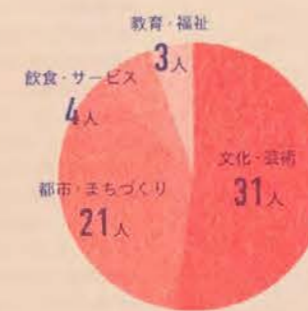
Q1

あなたは金山エリアにおいて以下のどれに該当しますか(複数回答可)。



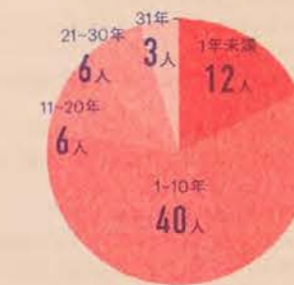
Q2

「Q1」の質問で「働くひと」「学ぶひと」を選んだ方にお尋ねします。お仕事のジャンルを教えてください。



Q3

「Q1」の質問で「働くひと」「学ぶひと」「暮らしごと」を選んだ方にお尋ねします。金山で「働いて・暮らして・通学して」何年くらいですか。



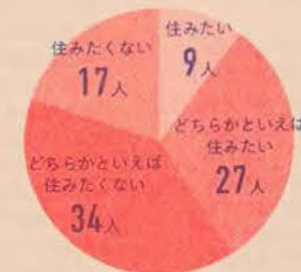
Q4

金山のまちは好きですか？



Q5

金山に住みたい(既に住んでいる方は、住み続けたい)と思えますか？



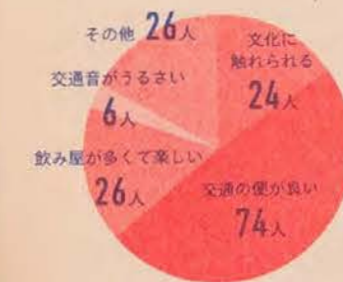
Q6

今後、金山のまちに変わってほしいと思えますか？



Q7

あなたは金山にどんな良い・悪いイメージを持っていますか(複数回答可)。



その他：治安が悪い、雑然としている、汚いなど

Q8

普段、金山に用事があって、少し時間に余裕があるとき、どこで過ごしますか？



「カフェ」や「本屋」など、具体的な店名がない回答も多数。

Q9

これから金山駅周辺は、市民会館の建て替えなどによる「文化芸術を中心とした大規模な再開発」が計画されています。金山がさらに文化的なエリアになるには、どんなスポットが必要だと思いますか？

(例：公園、カフェ、レコード屋、ライブハウス、心地よいベンチ、OOな景色 etc...)



- ・アート系のオルタナティブスペース
- ・人がとどまり時間を過ごせるような場づくり、商業施設ではなくイベント可能な広場
- ・子ども(未就学児)を気軽に連れてきて、遊ばせられる施設やカフェがあること
- ・絵書かなオープンスペース
- ・ポストンほど大きくなくても良いが、(農業や市美のような)美術館や博物館があるといい
- ・屋外でお弁当が食べられる場所
- ・アスナル金山のような、週末にイベントが開催される広場
- ・素人がストリートライブができる場所、市民ギャラリー
- ・金山につぐらいライブハウスがあってほしい。アスナルの野外ステージは残してほしい。駅構内でライブやミニコンサートを開催できるようにしてほしい。公演情報が一目でわかるような掲示板を駅に設置してほしい。映画館がほしい
- ・癒しになる場所
- ・ホールだけでなく練習室が欲しい
- ・クラシックを楽しむホール シラカワホールのような
- ・アートギャラリー
- ・ホールと一体型となった市民の集える公共スペース(東海市芸術劇場、刈谷のホールのような)
- ・公園やカフェも含めた市民の憩える場、そして何よりその中心に新市民会館がある。そしてホールがあれば良いというものではなく今の様なこれまでもいくらかあるホールではない。これからの文化芸術の最先端を未来志向で生み出す革新的なホールである事(内外デザイン・内部構造も音響も日本の他の地域だけでなく世界のホール情報も参考にするべき)と、市民の生涯学習や小中学校の部活動停止や縮小による文化施設が懸念される事に対し、やりたいと思う子供達が少しでも出てくれる様な取り組みの中心として名古屋の市民文化の中心地的な街づくりを考えてもらいたい
- ・開立の美術館・博物館、心地よいベンチ、ストリートライブができるような広場員の歩道
- ・カフェ等きれいなお店ができていくと治安もましになっていくのでは、居心地の良い自由に使える空間、公園、ベンチ(木製、デザインの良い)等々
- ・緑のある公園やベンチ、子供が遊べたりくつろげる場所
- ・安全で心地よく過ごせるエリア・本や景色が楽しめるカフェ(市民会館2階のカフェは景色が抜群ですが営業日が固定せず、パリアフリーではない2階

- ・ありとて不便
- ・ファッションビル、デパート
- ・個性的な美術館、コンサート会場、図書館、開放的なギャラリー等+併設のカフェ 印象的な待ち合わせスポット
- ・駅から市民会館までのエリアが地下だけでなく地上でも賑がするような世帯が欲しい。スタバ等チェーン展開のカフェ(潰れにくいから)が敷地内様か途中のビルの一階で外でも過ごせるスペース付きで出店してほしい
- ・金山南ビル美術館の活用、駅近くで過ごしやすい公園
- ・安心して子供連れが過ごせる、見晴らしの良い空間
- ・目的がなくても気兼ねなく長居できる場所
- ・ライブハウス、本屋(図書館)
- ・中規模のイベントができるオープンスペース
- ・作業車両などの減少
- ・開放的な広場 おしゃれなカフェ 文化芸術のワークショップ等が日常的に開かれる場所
- ・大型ショッピングセンター(シネマ、電気屋等)
- ・ゆったりくつろげる場所(座れる場所がない、駅にベンチが少ない)
- ・図書館orまちライブラリー、通にアートを飾る、市民会館に来られる方が開演前や終演後にゆっくりできる場所
- ・フリースペースが充実した施設、図書館、大型スーパーマーケット
- ・トイレ、休憩する場所、ホッとできる場所
- ・美術館がもう一度来てくれるとうれしいのですが、文化に親しみをもつ人が集まりやすいように練習の場(音楽のスタジオや芝居の稽古場)や文芸にアート作品を作成する場(アトリエや工房)があるとよいと思います
- ・ブックカフェ、ほっとできる(休める)場所
- ・公園とさんぽできる道、街路樹とベンチ、音楽や映画が楽しめる場所
- ・公園、カフェ、自然、鉄道、心地よいベンチ、コワーキングスペース
- ・古い建物や街並みを残してほしい
- ・小さな店がたくさん入るアパートのような場所でハンドメイド作品やその材料、道具に出会える場所、本屋さん、マルシェや畜の市が定期的に行われる公園、駅を少し離れると思ご飯を食べられる場所が少ないのでカフェ
- ・喫茶店(カフェ)、ごはん屋さん、あるにはあるけどわかりにくいのでひとつにまとめていると行きやすい
- ・緑のある場所
- ・ゲームセンター
- ・大きな資本が絡んでいないような再開発。パナレコードの復旧、TOUTEN BOOKSTOREのような本屋さん、お金を使わなくても子供や高齢の方がのんびり過ごせる公園
- ・障がいがある人が移動しやすいまちづくりをしてほしい
- ・みんなが遊べる場所
- ・スポーツというか…街歩きイベントとかですかね
- ・いろんな人と話ができるスペース
- ・オープンスペース(ベンチ、テーブル、時間を過ごせる場所)
- ・飲み屋が多いイメージなので、子どもでも楽しめる明るいお店
- ・政治に触れる場所、政治家と身近に話せる機会
- ・レコード屋
- ・良いコレクションがあるのほとんど展示されないで名古屋美術館のコレクション展示用の新館

かなやまじんくらぶ日記

- 2024/7/23 Tue. 妙香園2Fスペースを仮スタジオとしてお借りすることに決定
- 2024/8/2 Fri. 河部さんデザイン「じんびょうぶ」が完成、金山に運び込まれる
- 2024/8/3 Sat.&8/4 Sun. 出張ワークショップ：「金山まつり」に参加。子どもたちとドライポイントワークショップ
- 2024/8/19 Mon. 公募で12名のゼミメンバーが決まる
- 2024/8/24 Sat. 11/9の催し名が「かなやまじんくらぶまつり」に決まる

Q10

金山での個人的なエピソードがあったら教えてください。並細なことでも構いません。

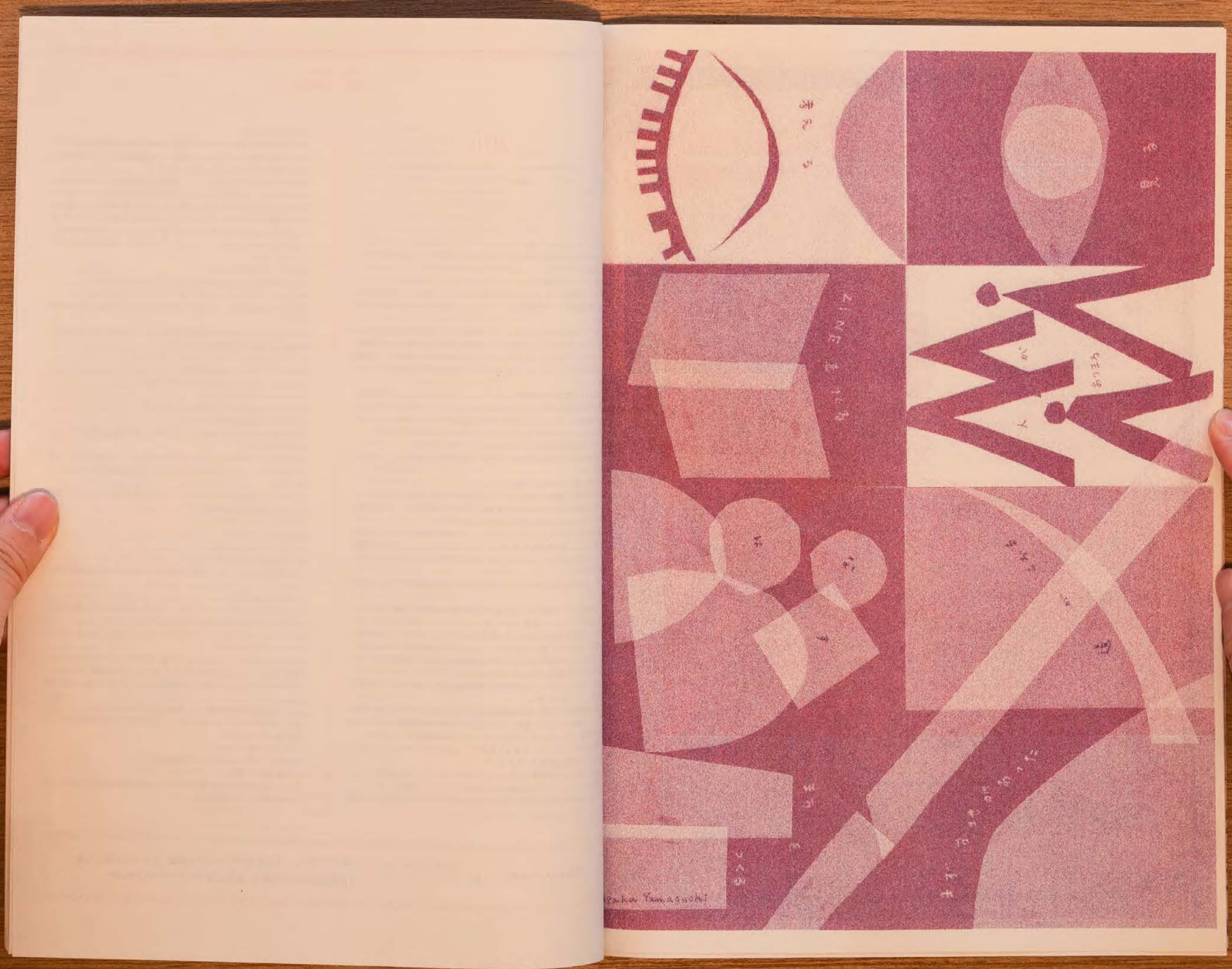


- ・じいちゃんと兄貴と一緒にいったハンバーガーしょっぷスワロウ JRから地下鉄や名鉄に乗り換える時に人多すぎてホームから落ちそう
- ・居酒屋などでリフレッシュをさせてもらっています
- ・働いていて、居酒屋も近くたくさんあり、良いところですが
- ・ボストン美術館に来ていたことも美術館以外に立ち寄ることがなかった、美術館の雰囲気と街の雰囲気はリンクしてる印象がなかったからかもしれない
- ・子どもの時にスワロウというハンバーガー屋さんで裏に買ってもらえるのを楽しみにしていました。総合駅になる前の名鉄電車の駅の改札を出て坂を登ったところにあったお菓子屋さんでよく大判焼きを買い食いしていた思い出があります。おしいご飯が食べられるお店が多く、昼夜問わずよく利用している
- ・子供のころ金山にある病院に通っていました。だから金山は、痛くて怖い場所でもあり良い印象はもともありません。しかしながら、キャン泣きしても頑張ると、母が帰りにお菓子屋さんでお菓子やおでんを食べさせてくれ、今はなきお店のおばさんに買ってもらったことが思い出です
- ・スタバが複数あるため、待ち合わせがうまくできなかった
- ・子供の頃、昔の名鉄金山橋駅に乗るときは怖かった気がする。(坂を下って暗かった)
- ・いつまで経っても開発が進まない
- ・以前ですが 道路に注射器がたくさん捨ててあり怖いと思いました。
- ・場外馬券場、ラブホテル街、飲み屋街、昔のカラーの悪いイメージを芸術的なイメージに変えるのは相当大変な事だと思います
- ・仕事で通い13年ほど。雑多な街のイメージ、東京の地獄なども同じ雰囲気を感じるが、東京芸術劇場のおかげで、文化に興味がある人も集う印象がある。新市民会館にもそれ以上の存在を名古屋市民に感じさせるものを作ってください
- ・はじめは金山(かなやま)とは認めなかった。同じく御器所や八事、新瑞橋も...
- ・名古屋に初めて来たとき、名古屋で治安が悪いのは金山、鶴舞、今池(錦栄は除外していた)と聞き、金山には良くないイメージを持っていた。半年前から勤務地が金山となり、平日毎日出勤しており、昼休みに金山駅周辺を散歩しているが、働く方や学生、ファミリーなど人通りはとも多く感じる。人が多い分、治安が悪いかどうかは単純関連はないが、駅構内で歌う人や駅前広場で絵を売る人など確かに変な人は多い
- ・路上でミュージシャンが演奏できる雰囲気は良いが、静かにくつろげる空間があっても良いと思う
- ・金山に勤務して2年、急な土産物が必要になった時、デパートは既に閉店して困っていたら、熱田イオンの贈答コーナーが補填充実していて、遅くまで開いているのでとても助かった。それ以降、結構利用しています
- ・昔はスポーツセンターがあって卓球やプールがあり、それはそれで楽しかった。今金山に必要なとは思わないが
- ・長らくホールと楽器屋さんのイメージがあったが、ホールは雑居化し、楽器店もなくなった。その分以前より文化芸術のイメージは薄くなった
- ・お昼休憩時間だけで、食事、銀行、洋服ショッピング、ハンドクリームは買

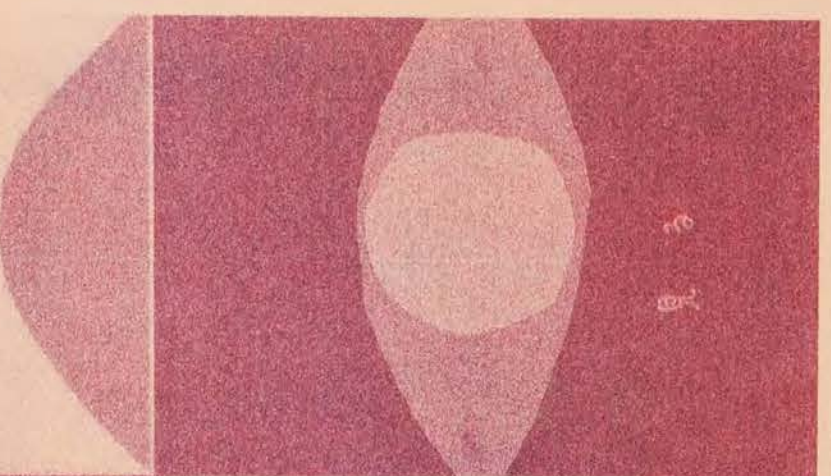
- 入まで完結できます！
- ・親の日本舞踊の発表会や映画の試写会、水通居関係や国際交流のコンサートなど現在の仕事とは関係なく一市民として市民会館にまつわる中高生の頃からの多様でたくさん思い出があります
- ・金山総合駅の実現、商業施設アスナルの開業で金山の活性化は目をみはるものがあります。総合駅以前の寂しいJRの駅や坂道に洋服が吊り下がった露店のような店が連なる名鉄金山橋駅、地上の広い駐車場などの光景はだんだん記憶から薄れて来つつあります。その頃は治安の悪いイメージで、若い人が金山に遊びに来る雰囲気ではありませんでした。これらの素晴らしい開発の成功を市民会館エリアまで広げて、榮に次ぐお洒落な文化の街になって欲しいです
- ・風来坊、名物店員に、会いたい
- ・金山で食事をするときは、駅周辺(アスナル)のみの使用でした
- ・働くようになり、駅から少し離れた個人店にも行くようになりました
- ・アスナル1Fの限定スイーツの店や、駅構内のお店で、家族へのお土産を買った
- ・朝のラッシュ時に金山駅の連絡通路を通る時は、人を避けながら歩くのに気を遣う(人の流れに規制がないため)
- ・アスナルで好きなアーティストがきて、近くでみた
- ・子供のころ、金山といえば水谷骨操
- ・大人になってからは、金山といえばパチンコ屋
- ・学生の時の乗り換え場所でした
- ・子どもたちの音楽会で市民会館によく来ました
- ・大雨で電車が止まり遅くなった
- ・市民会館の生垣のツツジが咲くと、夏が来るのを感じる。季節を感じられる樹木があると良い
- ・好きなアイドルの写メ会で、推しの子の隣の子から「こないだ、金山にいるの見たよ」と話しかけられました。アイドルも金山に行くんだなーと思えました
- ・小学生のころ水泳教室に通ってました。轉りに中央線のホームで立ち食いのみしめんを食べた記憶があります
- ・ブラジルコーヒーでのライブ!
- ・GigoでぬいぐるみGet!
- ・ゼツリアのポチトが美味し
- ・昔、熱田のイオンでお料理教室に行っており、よく来ました!
- ・2年前に金山に住んでいて、東京に転勤。その後名古屋・金山が好きで戻ってきました!!
- ・待ち合わせでよく使う
- ・駅しか使ったことがなかったですが、これを機にまた訪れようと思いました
- ・適当に入った韓国料理店で食べたケンパが忘れられません
- ・南口でマルシェに参加したときにアスナルのライブスペースにリイベで来ていたアドルに会ったこと
- ・南口のビッグエコーにあったレコード屋。夜22時くらいまでやっていて、仕事帰りによく行った。店員さんがインスタライブで自ら演奏していた
- ・市民会館のコンサートに来たらTV取材につかまりそうになって逃げまわったこと
- ・コンビニの前に民屋を設置して、ポイ捨てがなくなってほしい
- ・金山に日本がいろ灯という会社があり、日本の約90%の街路灯を作っているときいたことがある
- ・サイゼリヤを深しに来た!
- ・住みだして8年くらいですが、学校は金山でした
- ・20年前に働いてました
- ・アスナルの場所に恒久的な施設が完成すると戦災復興記念碑があると聞いたが目の黒いうちに出来るのか

かなやまじんくらぶ日記

- 2024/8/28 Wed. ブラジルコーヒーでの出張WSで用いる秘儀「メディウム割がし劇り」の試作品をみんなで見ると。矢場公園でサイアノタイプの試作



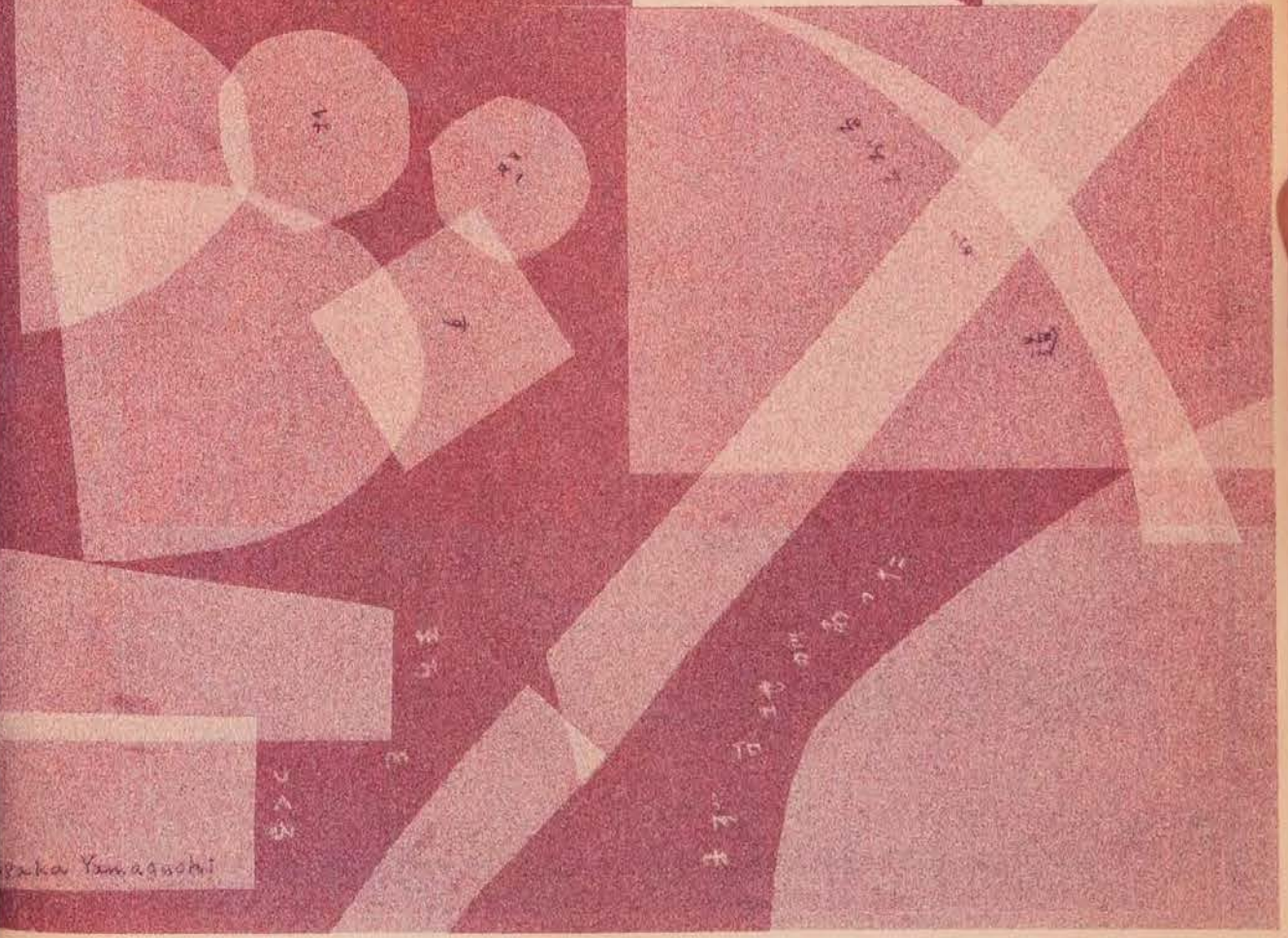
ま
る



ま
る



ま
る



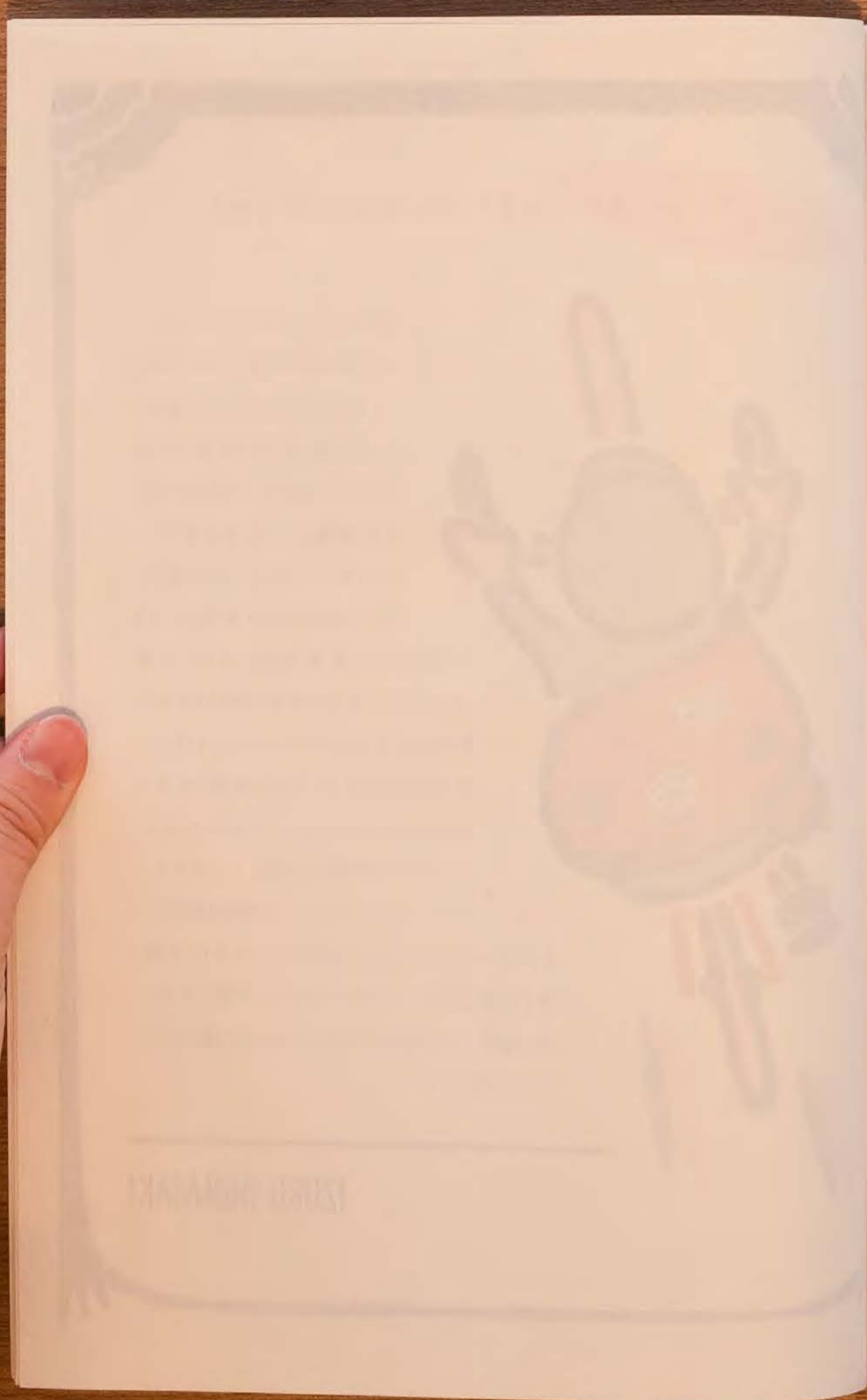
Yuko Yasuoka

LET'S GET LOST IN KANAYAMA



20年以上メッセンジャーとして名古屋の街を走ってきたなかで、金山は他のどの街ともちがう、ある種、魔力的な魅力を感じていた場所です。国道19号と大津通という大きな通りの間にあってクルマの流入が少なく、(駅の周り以外は)いつも静かなので自転車で迷い込むには最適なのです。そんな街区が熱田神宮から東別院まで広がっている。しかもここは熱田台地の上、古代から続く大きな歴史と鉄道の発達による現代の私たちの生活が同時に存在しているまち。ストリートミュージシャンも国内屈指の名門オーケストラもいる。自分にとって金山は通り過ぎる街ではなく、ぐるぐるする街。お気に入りのZineを片手にぐるぐると、皆さんもぜひ迷い込んでみてください。

IZURU SHIMASAKI



かなやまじんくらぶ の じんびょうぶ

河部主佑

金山ZINEクラブのZINE屏風

金山のまちを舞台にZINEをつくる参加型アートプロジェクト「かなやまじんくらぶ」のための仕器を設計しました。木製のフレームに糸が段々に張られていて、冊子や紙をクリップ留めすることができます。屏風のように2枚が対になっているので、折り畳むことで運んだりしまったりが簡単です。



できた作品を吊るす

いろいろな使い方

- ▶制作時に紙を乾かす
- ▶レイアウトしてみる
- ▶展示する
- ▶空間を仕切る
- ▶ステージの背景をつくる

本のような家具

「開いて閉じて」というのは本やZINEと同じ仕組み。段々に張られた糸がノートの見返しにも見えてくる。手触りの良さも本に似ています。



ワークショップ会場を稼げるじんびょうぶ

コルデル文学

ブラジルにあるコルデル文学というカルチャー。「コルデル」とはポルトガル語で「細い紐」の意味。小冊子を紐や糸に吊るして販売する文化があります。じんびょうぶはそのオマージュでもあります。

自転車で運搬！？

メッセンジャーとしても活躍する嶋崎出さん。カーゴバイクにじんびょうぶを載せてまちなかを疾走していました。かなやまじんくらぶは、普段のスタジオを出て、出張でのワークショップも行っていました。



カーゴバイクで金山を移動するじんびょうぶ

秘められた意味

建築工事の最初に「遣り方」といって、建物の位置や水平を決める工程があります。土の上に木材が組まれて蛍光イエローの糸が張り巡らされている光景を見たことはないでしょうか。実は、じんびょうぶも同じように、木材の水杭・水貫・水糸の3つのパーツでできています。土地（金山）の上に建物（文化）をつくるというニュアンスが秘められています。



水杭・水貫・水糸で構成される

かなやまの達人

インタビュー ①

今回の達人

田邊雅彦さん(金山商店街振興組理事長)

金山のまちを知るために、まちの方々にお話を聞く「かなやまの達人」インタビュー。記念すべき第1回は、金山総合駅にほど近い沢上交差点近くで生まれ育ち、金山のまちづくりのキーパーソンである田邊さん。近辺の地図を見ながら、かなやまじんくらぶメンバーがじっくりお話をうかがいました。

聞いたひと: かなやまじんくらぶ(服部浩之、穂輪出、山口麻加、河部圭佑)
クリエイティブ・リンク・ナゴヤ(佐藤友美、谷口裕子、半田萌)

聞いた日と場所: 2024年7月3日 田邊さんのオフィス

田邊さんはアート好き!

現代美術が基本好きです。漫画とかが好きながらで美術も好きだったんだけど、絵を見ててもさっぱりわからん時期があったんで、描いてみれば多少わかるかなと思って、日本画を習っていたときもありました。20代から30代の頃ですね。

田邊さんのルーツと子どものころ

うちの会社は50年くらい前に創立して、父が1代目で自分で2代目です。母が波寄町の出身で、父が岐阜の山奥から出てきて、一統になって。ここが母の家族の土地で、結婚したので譲ってもらった。そこで父が電気工事の会社を興して、当時の3倍か4倍にどんどん広げていったんです。だから自分はほとんどここで育ちました。

こちらへんは僕の子どものころは、まだアスファルトが敷かれてなくて砂利道だったんですよ。当時、車が走ると、砂塵がでてもう…。隣のおばちゃんがおっぱい半分出してうろろうしてるようなところでした。

今、この北側がコインパーキングになってますが、昔からここは駐車場だったんです。屋根の上によく上がって遊んでたんですけど、隣のおちゃんに何度か怒られた記憶がありますね。危ないね。でも、そういうスリルが楽しかったですね。泥まみれになって本当に鼻水垂らしてパンツ一丁で走り回ってた。昔は今ほど暑くなくて夏も30度なんていうのが珍しい時代だったので遊びやすかったし。

行動範囲は、小学校の頃は学区ですよ。大津通と東通19号線、高蔵小学校までの間かな。ちょっと足伸ばして遊みたい。こちらへんはちやうど熱田区と中区の区境だけど、なかなか北側(中区側)の友達はいなかったですよ。

鉄鋼の街、金山・沢上界限

八幡通から東側は熱田神宮の間で鉄工所が多かったんです。昭和20年代30年代は鉄工所だらけでした。鉄工所が多いのは金山神社がもともと

鉄鋼の関係の神様で、歴史をひも解いていくとつながりが出てくる。

鉄工所が多かったから銀行も多かったんです。前は愛知信用金庫、交差点角は現在、瀬戸信用金庫になってますが、その前は三和銀行だったかな。南輪信用金庫、十六銀行、ちよっとくと中央銀行、名古屋銀行で今はいわば銀行通りですが、昔は鉄鋼通りでした。工業の街だから服従もみんな作業服で、飲食店も多いしヤクザもいた。鉄工所も今はほとんどなくなりました。南側(熱田区側)はあと住居ですね。

北側はもともと住居が多くて、名古屋市民会館ができる前は名古屋市の体育館でした。

市電と「沢上」

目の前の八幡通と大津通には市電が走ってまして、ライオンズマンションの建っているところが沢上車庫でした。ただ僕のイメージでは、市電は花電車しかあんまり記憶ないんです。電車の周りにいっぱい、花の飾り付けをするんです。きれいで可愛く、それがずっと走っていく花電車。

当時金山って言っても誰もピンと来なくて、地元の人たちは沢上って言う方が知名度があった。すぐ南にも沢上市場っていう



昔ながらの市場もあったんですが、そういうのも減ってきて、沢上商店街もなくなっちゃったし、時代によって街も変わってきたのかなと思います。

熱田神宮と熱田台地

やっぱり皆さん、熱田神宮に近いところって印象があるでしょう。より神宮さんに近いところご利益もあるって意識もあるだろうし、ここは熱田台地のななです。極端に言うと、名古屋城から熱田神宮までのある程度の幅を超えると富士山型というか、堀川、新堀川だから、もう25年前かな、東海豪雨のときはこの辺はほとんど、影響はなかった。ここからは大変な洪水になりましたが、昔は熱田神宮から南、西はほとんど海で、波寄町はその名の通り波が寄せてたんです。本当に古代の話だとは思ってんですけど、それくらい海には近かったところということですね。七重の渡しが神宮の東にありますけど、東海道も七重の渡しから船で渡っていくしかないって時代がありましたからね。だから、地元の人七重の渡しを公園にして大事にして、6月にはいまでも熱田まつりで花火がありますよね。ここへんはお寺や神社がめちゃくちゃ多くて、70、80あります。観音寺もそうだし、徒歩圏内で行くところあるだろうってぐらい。一人で祀ってるものも多いですね、ちっちゃい鳥居作って、特に鉄工所の関係とか昔からの会社は自分のとこで祀ってることもあるし、そういう意味では信仰深い方々がもともと多かったのかなと思います。

昔は駅はバラバラだった！

昭和30年くらいから写真やデータがはっきりしてきてんですけど、いまの総合駅のあたりは昔はなにもなかったんです。地下鉄と名鉄、国鉄は中央線しか止まらなくてバラバラの駅でした。1989年に金山総合駅を作った時にJR東海道本線も駅ができました。それまでは名鉄の線路沿いの坂道を降りて熱田の方に行く、その途中に名鉄金山駅があった。その坂道にいろんなお店がいっぱいあって賑わってたんです。で、駅の前には波寄町商店街っていうのがあった。そこも小学校の学区内だったので友達に至る所にして、よく歩いてました。

幻の近鉄金山駅

大津通に、僕が生まれたときにすでに近鉄特急の看板があったんです。駅がないのに。昔から近鉄は金山に出てきたかったんです。そのために看板をずっと金山に掲げてたんです。1999年に計画された線路区にも近鉄が伊田から入るよっていうのが計画図に入ってるんです。近鉄は、それだけ金山という所を昔から魅力的な場所だと思ってたんですね。ところがやっぱり名古屋は昔から地元の財界が強いから……

金山南ビルと名古屋ボストン美術館

1999年に名古屋ボストン美術館ができたときはセンセーショナルな感じでしたよ。当時はこの金山商店街も、もう、わき上がって盛り上がり、美術館ができて人が来ると、でもこちら側、沢上側は基本的に変わってないです。このビルなんかもう



50年です。名古屋市の金山再開発は市民会館やアスナルです。再開発もこれから10年20年、どれくらいかかるかわからないんですけど。

金山-名古屋駅-栄のトライアングル

金山地元民としては、金山、名古屋駅、栄の名古屋を所轄的に見たときのトライアングルを作りたい。名古屋も、名古屋駅から栄まで人通りをよくするといういろいろな発展させてますけど、私はそこに金山を加えてトライアングルのその地域の中で活性化を図って行けば、名古屋がもっと面白い街になるんじゃないかなと思います。

地域の変化と金山のこれから

ここへんは高麗小学校の学区ですが、1学年が僕の母の時代だと6クラス、僕の時代は50年前で4クラス、今はギリギリ2クラスです。子どももなくなってきています。町内会も町内会長をやってくれる人がいない。自分が住んでるところに対する思いが、皆さん薄らいできたのかなっていうふうに思います。良い悪いは別にして、地元のお祭りとかなくなってきたということもつながってるんじゃないかなと思います。当事者としては嫌です。仕事も行って家もあって、自分の時間、土日祝いて、そんな皆さんのために街のために僕がやらなきゃいけないって気持ちも分かってんですけど、それで、町内会がこの高麗学区内でもなくなってきてるんです。古い家はほとんどなくなって、マンションや若い人向けの新興住宅が建って、でも新しい人が入ってきてることで、そこで交流を持たなければ町もできていけないし、町内会も育たない。人間同士という部分での絡み方がうまくいかない町そのものが衰退はしなくても、なんかおかしな方向に行っちゃうんじゃないかなって感じはします。私も自分の生まれ育った場所、土地ってやっぱり愛着があって、それとまじり合っていて、面白くて夢があるんですけど、実際やろうと思ったら、新しい住民のひとも含めて、人間関係をどういうふうに構築して、どうやって打ち解けて妥協点を出すかというのが、解決なんじゃないかな、と、いつも思っています。

かなやまじんくらぶ日記	2024/9/4 Wed.	建築チームがかなやまじんくらぶ活動に参加することが決まる
	2024/9/5 Thu.	金山南ビルの下見日。「かなやまじんくらぶまつり」のプランを考える
	2024/9/6 Fri.	妙香園飯スタジアムに荷物を運び込む

かなやまの達人

インタビュー ②

今回の達人

小出篤さん(公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団 演奏事業部長)
林仁志さん(同 ライブラリアン)

金山のまちを知るために、まちの方々にお話しを聞く「かなやまの達人」インタビュー。第2回は、名古屋音楽プラザ(1996年開館)に練習拠点や事務所を置く「名古屋フィル」の小出さんと林さん。お隣の名古屋市民会館でもずっと公演を行なっている「名古屋フィル」のお二人に、金山の思い出などをうかがいました。

聞いたひと: かなやまじんくらぶ(崎崎出、山口麻加)、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ(佐藤友美、谷口裕子)
聞いた日と場所: 2024年9月20日 名古屋音楽プラザ

お仕事について

小出さん 演奏事業部の仕事はコンサートの企画で、どういった方針で、どんな指揮者やソリストを呼び、どんな曲でプログラムを組むかというのを、その時の常任指揮者や音楽監督に相談しながら決めていきます。主催公演であれば名フィルとしての方針に従って、依頼公演ではクライアントと相談してお客さんに喜んでもらえるような有名で華やかな曲など、ということですね。



林さん ライブラリアンは、年間100回以上ある公演の楽譜を扱う専門職です。楽譜も買ったり、レンタルしたり、どちらもない時は編曲してもらったり。楽譜は楽譜は買ってもそのまま使えないこともあって、スコアとパート譜が合っているか一音ずつチェックするなど、下手すると半年以上かけて整備したりする曲もあるんです。ほとんどが外国の出版社ですが、音符が見えないくらい薄かったりとか、五線ががすれて見えないときは、一本ずつ引き直すんですよ。みんなに提供できるところまで準備するのが大変ですね。そして練習や本番ではオケの全員の譜面台に配って、終わったら回収するところまでが仕事です。

金山と名フィル

小出さん 私は神楽川出身で2003年から名フィルの事務局に入りました。その頃はもう音楽プラザでしたけど、金山に降り立ってここがガラが悪そうかっていうのは、私は全然思わなかったですね。ただ、2006年度からスタートした「市民会館名曲シリーズ」は、私は「金山名曲シリーズ」っていうタイトルにしたかったんです。そしたら、その時の上の人たちが金山はあんまり良いイメージがないから、そんなタイトルにするなと置った。その頃とくらべたら随分イメージも良くなったんじゃないですかね。地域貢献としては、音楽プラザで無料のサロンコンサート毎月1回開催しています。どこから来ているかなどは調べていませんが、基本的にはご近所の方が多のかなと思います。まちか

どコンサートは名古屋都市センターでもやっています。昔は金山駅でもやっていたんですけど最近では通行人の邪魔になるからとできなくなってますね。本当はやりたいんですけど。

林さん 私は1988年に、名フィル初のライブラリアンとして雇われて、初出勤は7月21日で、その日市民会館で公演があって、ゲルギエフ指揮で、ラフマニノフのピアノ協奏曲をキーリングが、バガニョーニのヴァイオリン協奏曲をヴェンゲローフがソリストで、夢のようなコンサートで衝撃的でした。その頃の名フィルは名古屋市民会館の中に企画制作や総務、経理などの事務所がありましたが、オーケストラは昔の名古屋市立録音高等学校の体育館を専用練習場として使わせていただいていた。ここは1988年9月に名古屋市立中央高校に統合となり、我々も新設された中央高校へ引越ししました。ただその練習場はとも狭く、楽器倉庫もなかったので使うことができません。リハーサルは名古屋港湾会館、サン堂寺、名古屋テレビ東別院ホールなどを転々とした。ですので私は市民会館で公演がある時だけ金山に遊びました。そのころ岐阜に住んでおりましたが、国鉄の東海道本線には金山駅がなく、金山総合

駅ができる前までは、坂を下っていったところにある名鉄の金山橋駅を利用していました。またその頃は愛知芸術文化センターもないので、オーケストラのコンサートはもっぱら名古屋市民会館で開催されていました。

1996年にこの名古屋音楽プラザができ、オーケストラの現場と企画制作、総務、経理などが一緒になり、指揮者室、ソリスト室、催事の練習場などもできて、なにより野田専用ではありませんけれどオーケストラ練習場がすぐ上の隣にあって、とても便利になりました。オーケストラのリハーサルも毎回違うところを転々としていると、毎回本番並みの準備と心構えが必要なので、とても大変だったんです。

名古屋市民会館と名フィル

小出さん 初め名フィルが市民会館でやったのが1972年の第16回定期演奏会。多分開演したその月なんじゃないかな。正直、あんまり特別感はなく前から決まっていたプログラムをやった感じですね。A席が1300円。

あと1998年の「ワルキューレ」は多分、名フィル史上最高の名演と書かれています。去年亡くなった飯守憲次郎さんが、ワグナー指揮者として自分の力を全部注ぎ込んだ。名古屋にとってとても非常に記念碑的なコンサートだったと、当時の楽員や事務局長からも聞いています。

新たな劇場に期待すること

小出さん 川崎市がいい例で、昔は川崎なんか危なくて子どもは行けなかったんですけど、駅前にミュージアム川崎という音響的にも素晴らしいコンサートホールを作って、もうガラッと文化都市みたいなイメージに変わりました。あれぐらい劇的に変わった例はないと思います。

例えば金山はセントレアの玄関口になっているので、海外のお客様の呼び込みっていうのももってできるんじゃないか、海外への情報発信は我々も課題なんですけど、でも日本人がヨーロッパ行く時ってコンサートやオペラに合わせて行きますよね。金山はそういうポテンシャルを秘めた街だと思います。地下鉄も、名鉄もJRも全部ここで集まっているし、名古屋の文化の中心としての役割を、もっと担っていききたいところですね。旅行に行ったら現地のオーケストラを聴きたいって人は結構いるんですよ。名古屋に来たら名フィルを聞きたい、日本人の悪い癖なんですけど、国内で完結してしまって、海外のお客様をあまり眼中に入れてないってことがあるんで、これはやっぱり改めたいなと。実際、名フィルはとんでもないオケで、外国人の指揮者が来ると驚きます。もちろん世界のトップのオケとはまた差があるんですけど、日本に来るちょっとした海外オケよりずっと上手い。でも一方、それをわかっている名古屋の人が少ないのも悔しいですね。どうしても名古屋より東京、東京より海外、というイメージがあるので。

今は定期演奏会も愛知芸術文化センターでやるので楽ですけど、新しい市民会館ができたら、金山をもっと名フィルの街って状況に

できればいいんですけどね。あと、前日のリハーサルから使えというシステムにしてほしいですね。やはり本番のホールで音作りこめるかどうかは演奏のクオリティに大きく影響しますから。

金山でよく行くお店

小出さん 飲みによく行くお店というのは実はないんですよ。夜の本番が多く、忙しすぎて、たまには飲みに行こうっていうのは、楽員は多分やってると思いますが、事務局長はほとんどやってないですね。林さんと最後、飲みに行ったのが何年前だったかな？

林さん 沢上交差点の石田屋ですかね？前はちよちよよく行ってましたね。この近くだとかえるの九八郎とか、東別荘の立ち飲みワインのモントールは、ほらプレミアム・フライデーってあったでしょ、それをまだやって月末の金曜日には、1000円で3杯飲めて一つなんかおかずがあるんですよ。ほんとセンターですよ。ランチは午後のリハーサル始まる関係であまり出られないけど。

小出さん 自分がランチに行くときは、そこの東横バクチャーとか、あとピンディカ金山の本バルカレー、昔カシ米尔って書かれてたんですけどね。カシ米尔時代からそこはずっと通ってます。



かなやまじんくらぶ日記
2024/9/11 Wed. メンバー事前説明会@都市センター●皆緊張していた
2024/9/20 Fri. 名フィルの小出さん、林さんに音楽プラザでお話をうかがう●名古屋職員の方から金山再開発についてのレクチャー
2024/9/21 Sat. ゼミワークショップ「かなやまを彩る」実施●建築チーム、金山エリアのすべての道をマッピング。地図に140枚の付箋がつく●まだまだ暑い

かなやまの達人

インタビュー ③

今回の達人

馬場駿吉さん(旧名古屋ポスト美術館 元館長)

金山のまちを知るために、まちの方々に話を聞く「かなやまの達人」インタビュー。第3回は、「名古屋ポスト美術館」(1999年開館、2018年閉館)の第4代目館長を12年間務められた馬場駿吉さん。医師でありながら俳人としても活躍し、美術・映像・舞踊・音楽などの批評家であり、現代美術のコレクターでもある馬場さんに、今回「かなやまじんくらぶ」の企画監修を務めた服部浩之さんがお話をうかがいました。

聞いたひと: 服部浩之(青森公立大学国際芸術センター青森館長、東京藝術大学大学院准教授) 佐藤友美、半田萌(クリエイティブ・リンク・ナゴヤ)
聞いた日と場所: 2024年10月2日 名古屋都市センター

名古屋ポスト美術館の館長として

服部さん 自分も今年から、青森公立大学国際芸術センター青森館の館長を拝命したこともあって、馬場先生が館長になられた経緯と、館長としてのところがまえみたいなことを伺いできたらと思います。

馬場さん 名古屋市民会館には昔からコンサートでよく行っていましたけど、金山に文化的なイメージはあまりもっていなかったですね。やはり、名古屋ポスト美術館の館長になってご縁ができて、2008年から閉館する2018年まで3日通ってました。運営上の問題などで館長不在の時があって、館長になってくれないうちと頼まれて、最初は新鮮な気持ちで、新聞にもいろいろ書かれていたし、僕の周りにもそんな状況のところに行ってもまじいんじゃないかという人たちがいました。美術館の財団の理事長さんが東海銀行の元頭取の方で、会ってお話したんですけど、美術の中で何が一番興味を持っていますかと聞かれたので、正直に現代美術と言ったら、ちょっと困ったような顔をしていました。名古屋には日本美術や近代西洋美術を主に持ってきていて、現代美術の展示はあまりなかったから。

でも結局、せめて欲しいということだったので行くことにしました。僕が館長に就任するというので、現代美術専門の学芸員も新しく採用してくれて、館長室に飾るのは嫌だったので、僕の机を学芸員室にもおいてもらって、いつでも学芸員と話ができるようにしていました。学芸員は皆優秀でしたね。

服部さん 館長によって美術館のあり方が少し動いたってことですね。現代美術に主眼を置いた展覧会はポスト美術館のコレクションを用いた「ジム・ダイン——主題と複製: 版画制作の半世紀」(2011年)を開催されています。あいちトリエンナーレにあわせて愛知近郊の現代美術のアーティストをとりあげた「時の遊園地」(2010年)や次の

年の「呼びとめられたもの光」(2011年)もいい展覧会でした。

馬場さん 本家のポスト美術館へも年に一回は行って、理事や学芸員たちと人間関係を作って、いろいろ話ができるようになりました。その甲斐あって、閉館10周年の「ゴーギャン展」(2009年)では、ほとんど門外不出でポスト美術館の至室中の至室へ我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのかを日本初公開で展示できたんです。

服部さん 医師のお仕事は完全にリタイアされていたんですか。

馬場さん 名古屋市立大学医学部の教授を定年退職したとき、自分はこれから文化関係の世界に行くと言いました。それで、名古屋美術館の理事、名古屋文化振興事業団の副理事長。その後少したってから名古屋ポスト美術館に行きました。

俳人としての活動とアーティストたちとの交流

服部さん 「REAR」50号(2024年2月発行)で、先生の芸術に關わる句が掲載されていて、アーティストや表現者たちとどう



いうふうな先生が出てきたのが随分見えて、本当に面白いなと思っていました。

馬場さん 2002年に「REAR」という芸術批評誌を出してもう20年以上になりますね。愛知を中心に美術、舞台や音楽などを取り上げていますが、私も創刊者の一人です。編集同人から50号で私の特集をしたいといわれて、断ったんですけど、どうしてもってみんな喜んでくれたもんですから、今まで出した5冊の句集から、アーティストと関係のある句を選んでね。

服部さん 「REAR」以前にも、個人で「点」という俳句同人誌も発行されていますよね。僕たちは今回、金山でZINEを作っていますが、自律した表現のために自由に冊子を作っていくということに何か共通項がある気がして。

馬場さん 1965年創刊ですが、もともと瀧口遼造さんが出していた評論集が「点」という名前でした。点というのは短い言葉だし俳句にもぴったりと思って、瀧口さんに了承をもらって使わせてもらいました。表紙は加納光於さんに頼んで、その後も表紙やカットをずっと描いてもらって、同人は宇佐美魚目さん、本郷昭雄さん、大峯あきさん、友岡子郷さんで武満徹さんや大岡信さんなどにも寄稿してもらいましたね。年に1冊くらいずつ、本当に点々として出て、同人5人の伝手でいろんな人が寄稿してくれたり、領域を越えて芸術家が紹介されて、それらに僕が俳句を二句、三句とつけるような感じでしたね。

服部さん 馬場先生は作品をコレクションされるときも、作家と直接会ったり、仕事を依頼したり、作家とコレクターという関係だけじゃなくてご自身も表現者、俳人として物を作る人として関わりを持ってらっしゃいますね。

馬場さん 僕自身も言葉の世界にずっと生きているわけだけど、言葉と美術作品とか、自分以外の領域の人たちのお仕事も、どう向き合えば自分の表現もかわっていきけるかというのは常に思っていますね。いろんな領域のアーティストとお付き合いというのは、今でも一番大事にしているものですが、俳句ってというのは一対一の関係、とくに美術作品だと一対一という形で相対することが多いです。ところが舞台関係や音楽だと、句を連ねる、連句のように俳句からはじまって詩句となる。そこにある種の時間性がでてくるわけですね。ダンスや音楽だと、コラボレーションという意味では、そのように時間性を共有するということが、そしてお互いの制作の関わりが真ん中にあるって、お互いに力を見せ合ったり、影響し合ったり、そういうことがやっぱり重要なと思います。私のように医学の領域にいた者にとっては、とくに、身体で表現するということの幸せというのは非常に感じるので、自分が今ま

でやってきたことと、どこかでかみ合うなあとも思っています。

服部さん 眞鍋の方だけでなく新進の作家をはじめ、いろんな人やものと、本当に対等に付き合っているっていらっしゃるといことが、自分にもとても参考になるし、これは忘れちゃいけないところだなと思います。

馬場さん もちろん既に有名な作家と出会うということもあるんですけど、その人が既に評価されている部分とは、また別の立ち位置で、いろんなことをお話ししたり、その方の小さな作品に出会っても創作のエネルギーを感じるような、そういう世界にずっとこれからも身を置きたい。僕ももう10歳で行き当たりばったりですが、いろんな人に出会ってお話をすることから、自分の命が繋がれているような感じがします。

医療と芸術の交差

馬場さん 自分は耳鼻科で、生まれつき外耳が欠損している人の形成手術が専門でした。耳を作るということに熱心な時代があって、400件くらい執刀しましたかね。最初は日本ではあまり進んでない分野で、アメリカで新しい形成手術法が開発されたという論文が出たので、渡米して審判に会って技術を習うなどして研究しました。ちょうどその頃、三木富雄の「耳」の作品に出会いました。巨大な耳を作る人でしたが、ポケットに入るくらいの一冊小さい作品もあってコレクションしています。今日も持ってこようと思って忘れちゃったんですけど、

自分の中で、身体というもの、自分のやってる仕事と、直接繋がったのが三木さんの「耳」なんです。

服部さん 耳の形成手術も、医学の新しいこと、まだ誰も知らかしていないことに取り組んでいらしゃって、それは現代のアーティストがやっていることも近いし、乱暴なまとめ方もしれないんですけど、何か新しいもの、新しく生まれることにごくご関心をお持ちなんですね。俳句、表丁も今も生きている作家に、文章もまた見ぬものをというのが、とても現代的で面白く思います。

名古屋の画廊とアートフェア

馬場さん 今回、自分が働いていた美術館で開催されるということで、大変嬉しく思っています。自分も、いろんな画廊をたくさん回ることもだんだん難しくなっているんですけど、こういうアートフェアで画廊さんたちが、それぞれの目をかけておられるアーティストたちをご披露いただくというの、ありがたい機会です。私も6年前までここに選り抜かれたことを思い出して楽しませていただこうと思っています。



かなやまじんくらぶ日記

2024/10/2 Wed. ゼミワークショップ「オハ作り」実施 ●スタジオ作業も頑張る ●馬場賢吉先生に名古屋都市センターでお話をうかがう。馬場先生と服部先生は意外にも初対面

かなやまの達人

インタビュー ④

今回の達人

刃物屋いとうさん(現代美術コレクター)

金山のまちを知るために、まちの方々にお話を聞く「かなやまの達人」インタビュー。第4回は、金山近辺にずっとお住まいで現代美術コレクターとしても有名な刃物屋いとうさん。実はクリエイティブ・リンク・ナゴヤの佐藤も、刃物屋さんとほぼ同年代で子どものころから成人するまで金山近辺に住んでいました。2人とも総合駅ができる前に高校に地下鉄通学、TOUTEN BOOKSTOREがある沢上商店街の全盛期も記憶にあり、地図を見ながら、金山の懐かし話で盛り上がりました。

聞いたひと: クリエイティブ・リンク・ナゴヤ(佐藤友美、谷口裕子、半田晴) 聞いた日と場所: 2024年6月21日 TOUTEN BOOKSTORE

刃物屋さん 金山で文化スポットといってもあまりないんだよね、ブラジルコーヒーくらいですかね。新馬場に昔、ギャラリーがあったけどなくなっちゃったし、もって昔、沢上に映画館があったらしいけど。佐藤 私が小学校1年生のときに祖父母と同居するためにこちらに引っ越してきたときにはもうなかったですね。母が父と結婚したころから「映画館があった」というのは聞いてたとは言ってたから、1960年代以前の話? 刃物屋さん 沢上って市電の停留所と車庫があったじゃないですか。駅前からの繁華街って大抵、路面電車の末端が交差するところなんです。今地もそうだし、尾頭橋もそうだった。尾頭橋は市電と名鉄の接続点だったから。



現在の沢上商店街の入口。駐車場の位置に刃物屋、郵便局の位置に布田屋があった

佐藤 刃物屋さんは中学生の時に引っ越してきたっておっしゃってましたよね。刃物屋さん 名古屋博物館に寄贈した無銭夢中劇場として、映画や写真などを撮影した祖父の弟の伊藤一と妹が住んで、祖父が亡くなったので祖母と同居しようとしてきたんです。その頃は沢上商店街も店が軒を連ねてた。佐藤 そうそうたくさんお店がありましたね。布田屋さんだけでも2軒ありましたね。なんで2軒もあったんだろ。刃物屋さん ほらベッドのない時代だから、必ず嫁入り道具にいるでしょ、布田とタンスは。

あと、近代的に築えている商店街ってのはフルーツショップがある。新橋だと千足屋でしょ。入り口にフルーツショップがあって、布田屋があって、映画館がある。沢上商店街も、近代商店街の典型的な店舗構成だったわけよ。佐藤 たしかに入口に果物屋さんがありました。近くに服部病院があるからだと思ってたの! あとは、八百屋さん、酒屋さん、銭湯、喫茶店、和菓子屋さん、お寿司屋さん...お肉屋さんのほかに、かしわ(鶏肉)屋さんも別もありました。その子どもさんが小学校の同級生ってのもけっこういましたね。刃物屋さん イオンモール熱田から南からずっと今の向こう側の田舎になってるところ一帯が、昔は全部軍工廠だった。ほかにも日本軍医とか、そういう職場があるわけじゃないですか。熱田の六番町とかも町工場が非常に多かったし、町工場向けの機械屋さんとか工具屋さんとかがこころへんもいっぱいあった。佐藤 町工場が、名鉄の線路沿いに熱田の方までありましたよね。刃物屋さん あと、総合駅ができる前は名鉄の金山橋駅の前に波寄商店街があって、東邦ガスとかこの辺で働く人たちが、駅に帰って途中に飲み屋がたぐさんあった。総合駅できて名鉄も移っちゃって、興隆寺がいなくなったから、商店街もなくなってしまったね。佐藤 私、高校は地下鉄通学でしたけど、まだ総合駅じゃなかったから、熱田区側から地下鉄の金山駅に行くには名鉄の線



駅ビルに入ってしまったが昔からこの場所にあるミスターーナツ

路の上の高層橋、国鉄の線路の上の金山橋を過って、今もあるミスターーナツの隣の入口から入ってました。今は総合駅の南口から入れるから近くなったけど。

羽物屋さん このミスドはずっとあって歴史があるミスドだね。その後今の駅ビルができて、ミスドが一層左端にあるけど、この位置は当時のミスドのそのままだよね。

佐藤 角のハンバーガーショップ、スワロウ、その後ロッテリアの前を過って、「立って食べてもスワロウ」ってキャッチコピーでした。「ハンバーガーショップ、スワロウ〜」ってコマmercialソングもありましたよね。歌ってたの、ほらほらほら、誰だっけ、なんとかかなくてゆう〜「青春時代」で一世を風靡した…(おそらく「森田公一とトップギヤラン」)

羽物屋さん スワロウは名古屋ローカルチェーンだった割にそこは妙に繁栄だった。(スワロウは1972年(昭和47年)設立で、同年度の「事業所統計調査による事業所名簿 昭和47年 愛知県名古屋市(総務府統計局、1974年発行)」にスワロウスナックが京東会館と同じ中区古沢町9-38で掲載されている。今フードコートと呼んでいるものを、当時はスナックコーナーと呼んでいたことから、ファーストフードとの意味を込めたスナックで、後にハンバーガーショップへ変更されたものと思われる。)マクドナルドも昔からありました(1973年(昭和48年)6月に市電金山橋駅前に中部1号店が開店したらしく、金山ワシントンホテルは1980年(昭和55年)9月30日開業なので、今の店は2代目)。名古屋の中ではファーストフードが早くから出店していた。



このスナック屋の場所に「スワロウ」があった

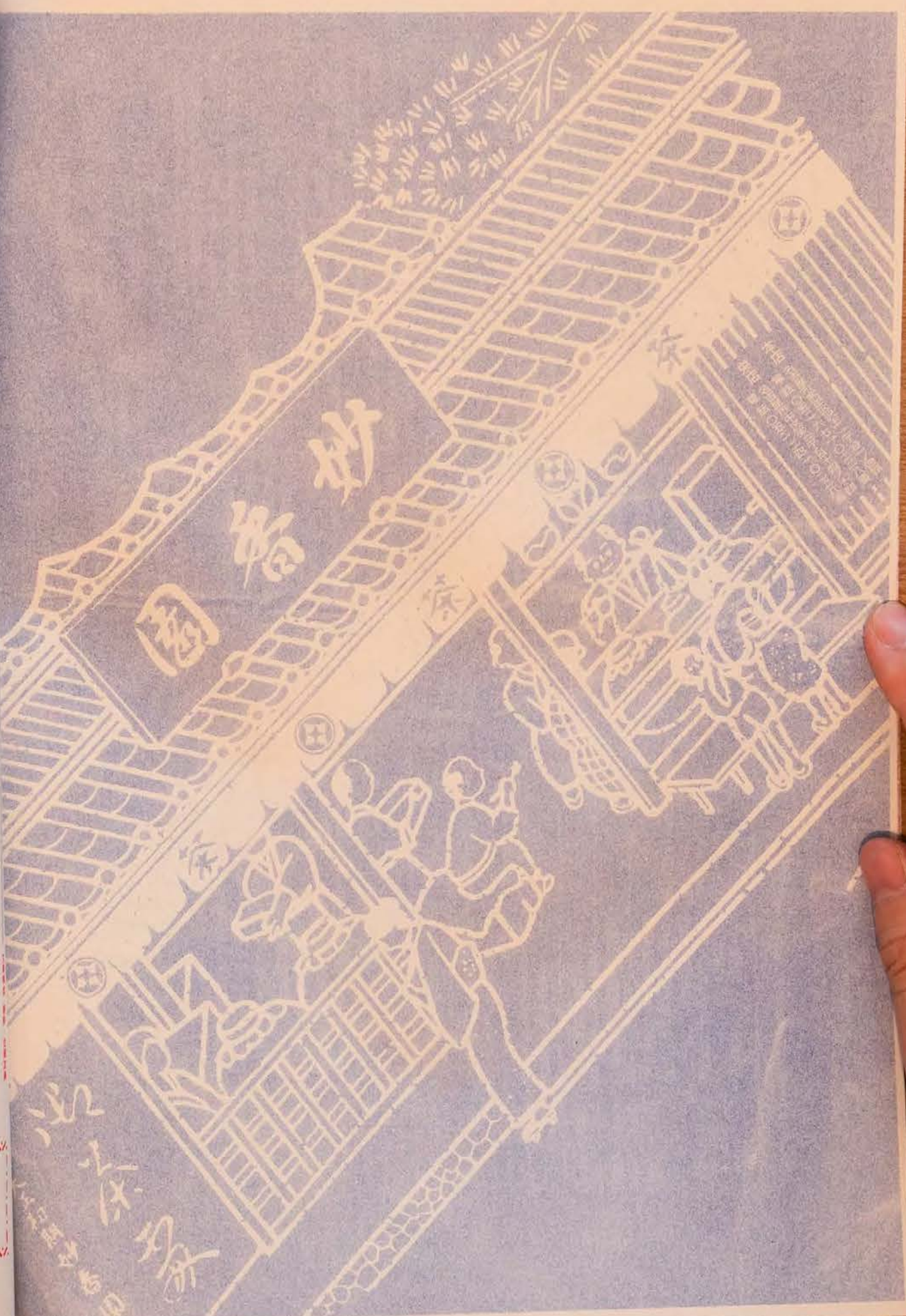
佐藤 羽物屋さんはどうやって高校まで通ってたんですか？
羽物屋さん 地下鉄で西高蔵駅から千種駅ですね。国鉄の中央線も今なら金山から本数あるけど当時は1時間に1本とかで、駅もすごく小さくて仮駅舎だったし、そこからへんはただの駐車場。駅を初めて降りた人は絶対びっくりしたと思うね。名鉄の金山橋駅も戦後のままの感じ。国鉄も名鉄も金山総合駅になるって話がすでにあったから、どうせ移転するしってことだったんだろうね。結局1989年になっちゃったけど。
佐藤 私も子どもだったこともあって、名鉄の金山橋駅行くのあんまり好きじゃなかったですね。怖い感じで。
羽物屋さん というか、まだ戦後復興中なんですよ。アスナルも仮建築だし、これが完成しないと名古屋の戦後復興は成就しないんだよ。総合駅構みの開発で百貨店ができるという話もあったらしいけど、バブル崩壊で流れちゃったらしいよね。そういう



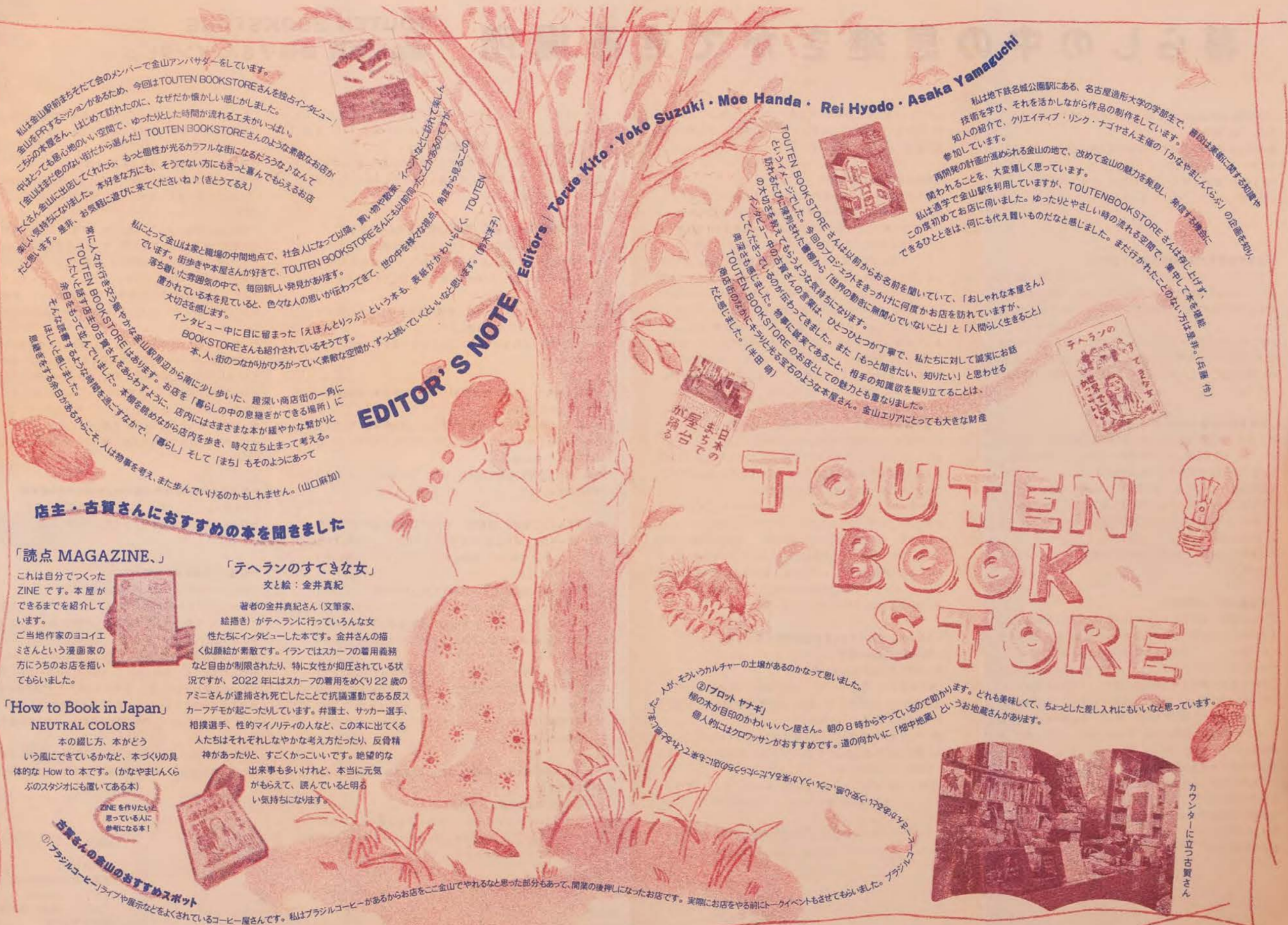
昔の名鉄金山橋駅へ下る坂。商店が軒を連ねていた

意味では、金山って発展しそびれたともいえるかな。
佐藤 ナゴヤドームができる前は、ドラゴンズも中日球場、ナゴヤ球場だったでしょ。今の山王駅がナゴヤ球場前駅だったけど、混むからみんなけこう歩いて金山まで来る。場外馬場もあるし、そもそも工場が多いから働いてる人も男性でって、金山駅近辺ってそういう人たちが向ける店があるイメージでした。
羽物屋さん 1989年のデザイン博の時は金山に総合駅ができただけじゃなくて、日自会場の最寄り西高蔵駅と日比野駅もデザイン駅にしましたよね。西高蔵にはたしか、天井にネオン管が仕込んであって、デザイン博の時はついてたんだけど、終わったら点灯しているのを見たことがない。30年数年たった今、電気をいれてネオンがつくのかどうか見てみたい。
佐藤 そうそう、いまでも日比野駅とか西高蔵駅って他の駅にはないデザインがついている。入口とか。あと、トイレが駅の構内の駅には多いのはその名残ですね。

うーん、羽物屋さんと懐かし話をしていると終わらないんですけど(笑)、羽物屋さんはいまでも金山近辺にお住まいですよね。長いこと住まれて、この街の住み心地はいかがですか？
羽物屋さん 自宅のあるあたりは商店がほぼなくなったので、今は郊外の住宅地より閑静じゃないかな。夜、たまに善走堂が走るぐらいで。住みやすい住宅地だけど、じゃあ都会か？って聞かれると、うーん、交通の便のいい閑静な住宅地になる。結局、文化スポットが、金山そのものにほとんどないって理由は、もともと商店街があったのは況上とか波寄とかだったからじゃないですかね。映画館やライブハウスもあくまで商店街の流れから普通出てくるでしょ。なんかうだうだと集まる場所がないでしょ。ミュージシャンとかアーティストって、みんなどちらかというとそんな品行方正じゃないし、うだうだと集まっているうちになんかそういう文化が生まれたりするのは。
佐藤 今は、金山駅近辺はかなりきれいになって便利になったのは確かですね。
羽物屋さん インバウンドの影響か、ホテルも増えましたね。セントレアからも一本で来られるから便利だし。名古屋ボストン美術館も、名古屋市美術館のコレクションから、ナム・ジュン・パイクとか、草間彌生とか、宮島達夫とかいい作品が沢山あるんだから、それを展示すれば、海外からの観光客向けの文化スポットになると思うんだけどね。地方美術館としては、名古屋市美術館のコレクションは素晴らしいのに常設展示室が狭いから、なかなか見られない作品が多くて残念だから。



かなやまじんくらぶ日記
2024/10/11 Fri. スタジオ作業 ● ZINEについてミーティング ● 「かなやまじんくらぶまつり」チラシ校了
2024/10/14 Mon. 河部さんのパソコン、10年の生涯を終える



EDITOR'S NOTE

Editors Torue Kito · Yoko Suzuki · Moe Handa · Rei Hyodo · Asaka Yamaguchi

私は金山駅前を老たせのメンバーで金山アンパサダーをしています。金山に居る心があるため、今回はTOUTEN BOOKSTOREさんを独占インタビュー。金山の本屋さん、はじめて訪れたのに、なぜか懐かしい感じがしました。二軒の本屋さんの、はじめて訪れたのに、なぜか懐かしい感じがしました。二軒の本屋さんの、はじめて訪れたのに、なぜか懐かしい感じがしました。二軒の本屋さんの、はじめて訪れたのに、なぜか懐かしい感じがしました。

TOUTEN BOOKSTOREさんは以前からお名前を聞いていて、「おしゃれな本屋さん」のイメージがありました。今回のインタビューを通じて、「世界地図に開かれた本屋さん」としての魅力を改めて知りました。TOUTEN BOOKSTOREさんは以前からお名前を聞いていて、「おしゃれな本屋さん」のイメージがありました。今回のインタビューを通じて、「世界地図に開かれた本屋さん」としての魅力を改めて知りました。

店主・吉賀さんにおすすめの本を聞きました

「読点 MAGAZINE.」
これは自分でつくった ZINE です。本屋ができるまでを紹介しています。ご当地作家のヨコイエミさんという漫画家の方にうちの書店を推してもらいました。

「テヘランのすてきな女」
文と絵：金井真紀
著者の金井真紀さん（文筆家、絵師）がテヘランに行っているんな女性たちにインタビューした本です。金井さんの描く似顔絵が素敵です。イランではスカーフの着用義務など自由が制限されたり、特に女性が抑圧されている状況ですが、2022年にはスカーフの着用をめぐり22歳のアミニさんが逮捕されたことで抗議運動である反スカーフデモが起こっています。弁護士、サッカー選手、相撲選手、性的マイノリティの人など、この本に出ている人たちはそれぞれ色々な考え方や、反骨精神があったりと、すごくかっこいいです。絶望的な出来事も多いけれど、本当に元気がもたらえて、読んでると明るい気持ちになります。

「How to Book in Japan」
NEUTRAL COLORS
本の綴じ方、本がどういう風に見えるかなど、本づくりの具体的な How to 本です。（かなやまじゅん）
本のスタジオにも置いてある本！

吉賀さんの金山のおすすめスポット
①「ブラジルコーヒー」ライブや展示などをよくされているコーヒー屋さんです。私はブラジルコーヒーがあるからお店をここ金山でやれるなと思った部分もあって、開業の機運になったお店です。実際にお店をやる前にイベントもさせてもらいました。ブラジル

TOUTEN BOOK STORE

①「プロット ヤナギ」
樹の本が自印のかわいらしい「屋さん」朝の日時からやっているのがすごいです。どれも美味しくて、ちょっとした差し入れにもいいなと思っています。個人物にはクロワッサンがおすすめです。道の向かいに「畑中地蔵」というお地蔵さんがあります。



暮らしの中の息継ぎができる場所

TOUTEN BOOKSTORE

店主・古賀 詩穂子さん インタビュー

取材日：2024年10月2日

TOUTEN BOOKSTORE (トウテン ブックストア) とは?
店主：古賀 詩穂子さん
金山総合駅南口から徒歩約10分の沢上商店街(※)に2021年にオープンした新刊書店。
1階：書店(新刊、個人の方が発行されているZINEなど)
2階：ギャラリースペース&カフェスペース

一店名の由来やお店の特徴を教えてください

「TOUTEN」は句読点の読点(とうてん)から。本の取次会社で働いているときに本屋の魅力に気づいて、本屋で暮らしの中の息継ぎができる場所だな、文章の中の読点とすごく似てるなと思いました。
2階のギャラリースペースとカフェスペースでは、いろんな人をお招きしたり、ドリンクを提供しています。本を買うだけでなく、買った後にちょっと過ごせるような、生活の中の息継ぎの時間になるようにしています。

一本屋を開いたきっかけは?

取次会社で書店を回る仕事をしていたときに、本屋業界のことをもっと知りたい、本屋をやる上でいろんな人とつながっておきたいと思い、3年勤めたあとに本屋を作る仕事に転職しました。
街の本屋は、その街の人、来てくれる人に合わせてとどんとデザインされ醸成されていくんです。同じ店を違う場所でやっても受け入れられるとは限らないので、一つ一つ企画して、ブックカフェの立ち上げに関わりました。
その後独立を決心し、2021年のコロナ禍でしたが、お店をオープンしました。

なぜ金山という場所に?

色のない場所、特定のイメージがない場所で自由にやりたいなど。金山はいろんな人が行き交う交通のハブの駅で、県外からも来やすく、雑多なイメージがあって、面白いかなと思いました。
物件探し中に、自分が出版していた「読点 MAGAZINE」というZINEを見た新聞記者の方からのご縁で、「さかさま不動産」というサービスを知りました。借りたい人がホームページ上に記事を作って、大家さんがそれを見てこの人に貸したいなと思って連絡をするサイトでやりたいことを紹介する記事を書いたら、ここの大家さんが連絡をくれてマッチングしました。
元は手前が時計屋さんの店舗で、奥が住宅という通りでした。今の大家さんは、その時計屋さんと別の方ですが、若い世代を応援する気持ちですごく優しいです。
金山駅は通勤通学では使っていましたが、始めはこの商店街は知らなかったです。
駅から距離があるし、どうだろう?と思ったんですが、大家さんがい

い方で、店舗がお店がやりやすいような形で、内見したときに近所の方が声をかけてくれて、大家さんとの関係性もいい感じで、雰囲気も良さそうだなと思ってここに決めました。

一地域との繋がりや経済循環

近所の方も、声をかけてくれたり、困ったときに助けてくれます。本の注文は、近所の人からも、他の地域の人からもたくさんあります。ネット書店で買うと、大きい資本に絡められる消費だと感じて、そこで買ったお金がどこに行くんだろうと考えたら、ネットは使いたくないという人もいます。自分が持っているお金が地域に巡った方がいいなと思う人が買ってくるように。お店があることで大事だなと思います。私もなるべく個人店で消費したいと思っています。うちで売上げたお金がまた例えば近所のブラジルコーヒーさんとかで使われたら、とお金が身近で循環していく感覚があります。
身近で消費して税金を払ったら、市や県の税金になったり、国税になったりして、結局身近でぐるぐるお金が回っていくのがいい経済循環だなと思っています。そこで考えている人が結構いるというのは、仲間が多いなって思った嬉しい発見です。

一本を選ぶ基準は?

選ぶ本はあんまり明確な基準はないんですが…。本は1日200~400冊くらい出版されていて、そこから毎日選んでいます。種もお金も限りがあるので、今までで売れた本から、これなら売れるかなと予想して選んでいます。「置かない本」というのは決めてます。いわゆるヘイト本や差別を助長するような本、恐怖心を煽ったりする本はあまり置かないようにしています。生産性主義、ビジネス書なども、時間を早く感じさせるような、急がせるような、頑固にさせられるみたいな本に感じてしまうのであまり置かないようにしています。急がせる部分があると、空間自体がせかせかするような気がするの、なるべくゆっくり時間を過ごせられるような空間になるといいなと思っています。

一たしかに、すごくホットとする雰囲気のお店ですね。

一並べ方のこだわりは?
置く場所を考えるのは本当に面白いです。「棚を編集する」方法の一つに、当店で棚ごとに名前を付けたり、住所みたいなものを付けています。例えば、「社会を見つめる」とか「どうやって生きていく」など。
種どうしの境界も緩やかで小さく意味が広がっていくような、びよんと飛べるような感じを心がけています。お店のあり方みたいなものにも繋がるとなっています。
「面陳」(面て陳列)も結構して、表紙を出すことで手掛かりになったり、あまり本屋に慣れていない人でも楽しめるようにしています。
いろんなタイプの本がいろんなところにあるなという感じで、ベストセラー本も、ハードカバーもあれば、ZINEっぽいものも近くにあった

りという配置です。ZINEも他の本の間に入れるものと、ZINEだけで固めるものに分けたり、この本の隣にはこの本が欲しい、というような組み合わせもあって、感覚で置いています。
本が好き、だけじゃなくて、本屋が好き、本棚の編集が楽しいです。本棚は人が作ってるので、罵人性があって、だからこそ本屋って行くと違いがあって楽しいです。

一自分で実際に読んでみて、気に入った本を置くんですか?

私が面白いと感じることも大切ですが、あまり重要視してないです。自分が好きな本とお客さんが好きな本の、円が交差するところで選んでいる感じ。なるべくお客さんが買ってこれそうな方を多く入れてます。
全部読むのは難しいので、表紙と著者の情報を見て、本の情報があれば冒頭をちょっと読んで選べます。
でも、思ったより売れなかったり、こんなにすぐ動いてしまったものもあります。

一雑誌を頼んで、専門の審美眼というか、中身を早く把握するコツがありますか?

本を選ぶのが早くなると自分が好きな本かどうかは関係なくなります。全部本があって選べるわけじゃないので、情報だけで判断して、棚に近いところもありますね。
でも、売れたら早く発注すればいいので、その辺のメンテナンスも本場に任せたいです。

一作家さんとのつながり、展示やトークショーについてはどうですか?

展示やトークショーをやることで著者さんとなつて、「何かやりましょう」となることがあって、本当に大事に育てていく、一緒にやっていくという感じ。
人が集まる場所になっていて、お客さんもこの本で何かやってみたくて企画してくれたら、自分だけじゃないところで店が使われていくのがいいです。一人でやっていると視野が狭くなるので、そこからまた自分が知らない人と出会ったりして、輪を広げてくれる人がいると助かります。
展示をやることでまたつながりができて、場所を使ってもらって、うちだけの発信では届かないような新しいお客さんに知っていただくきっかけになっています。いろんな人がいて、自分が見ているSNSの世界って狭いと思います。人のつながりが広がっていくのは、本当に面白いなと思います。

一そういう本屋さん、身近に、暮らしの中にあるのはすごく豊かなことですね。

一ZINEはどのように選ばれていますか?
ZINEは、フォローしている作家さんが出す本やお勧めしている本、SNSなどでチェックして発見します。フォローしている本屋が紹介していて気づいたり、置きませんか?というメールもよく来ます。

「文字フリマ」という本を作っている人の祭典の情報から見つけたり、お客さんから依頼されたり教えてもらうこともあります。

一金山でのお店を始めて見えてきたことは?

街や、お客さんが、想像を超えてくるみたいなことはありますか? いい街だなと思います。お客さんも、近所の人もみんないい人ばかりです。
すぐ近くに小学校があって、年に1回、町探検で小学2年生の子たちが来て、本屋について話を聞かせる行事があるんですけど、そういう機会があるのは良い学校だなと思います。
お店同士の横のつながりもできて、ブラジルコーヒーさんでは、ライブをした方が出版した本の出張販売を依頼されたり、友達のをうちでやったらどう?と提案してくれて、一緒に展示をやったりしました。
そこでまたお客さんが行き交って、その展示とコラボ企画のライブに私も開店後に行ったら、当店の常連さんたくさん来て、街が繋がると感じて、街が立体的に見えました。お客さん、住んでる人、店のつながりが面白くて、景色が変わって見えました。店で見えなかった景色が、違うお店でも人と人がつながって、こうやって街ってできてんだ。すごいな、と思いました。
そういうのはこの街でやる安心感みたいなものがあるなって思いました。

一本屋さんのような境界の緩やかさが街にもありますね。

いろんな人がいる、つながっている、という感じがします。お客さん自身も緩やかに境界をまたぐ人が来ていららっしゃるという感じがします。

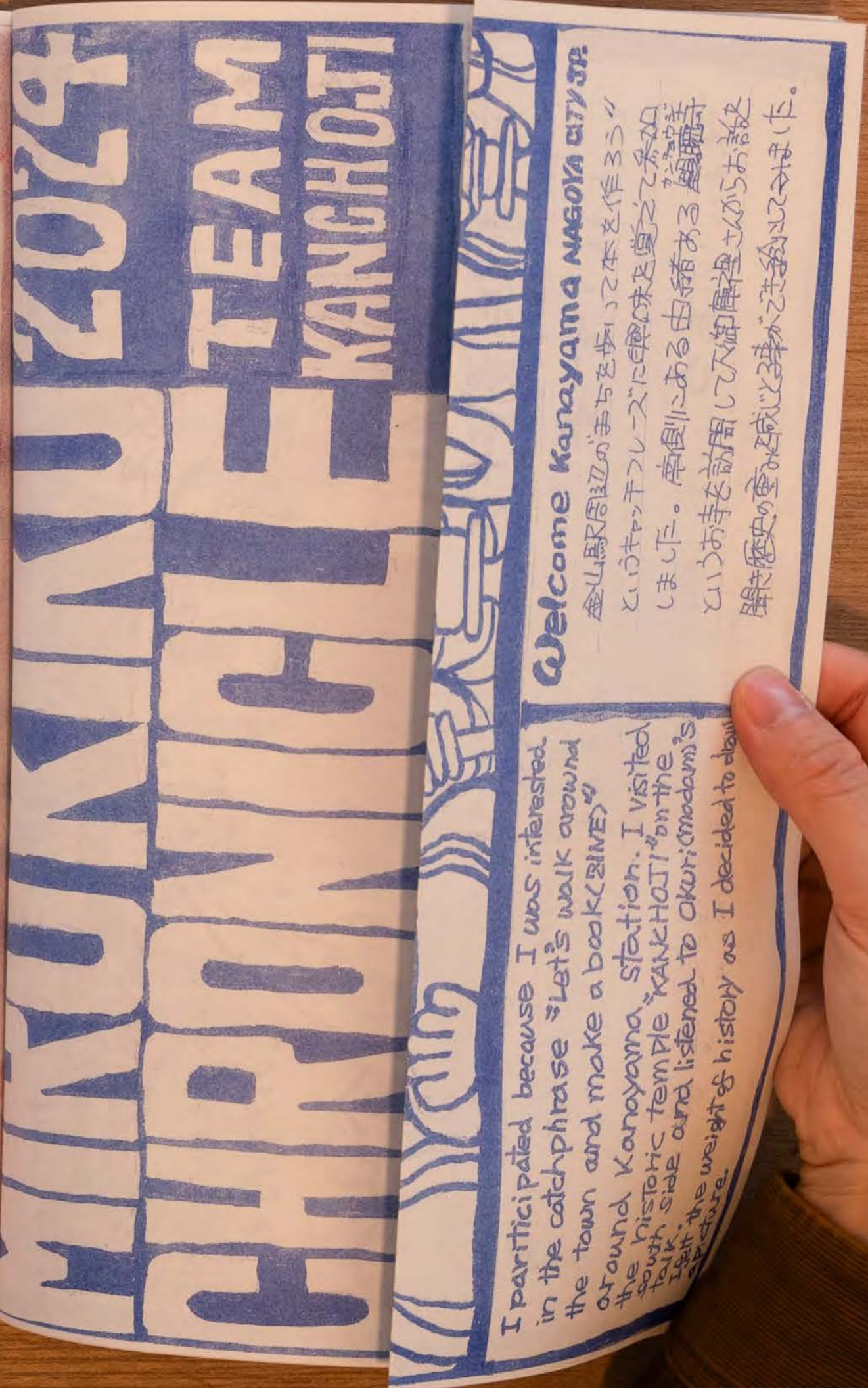
一お店としての今後の展望は?

今後も、街に開いていきたいなと思います。
今やっていることを続けることでどんどん関係していく人たちも増えていくので、それによってまた耕されて土がよくなっていく。そういうのが嬉しいですね。
お店って毎日毎日同じことの繰り返しで、同じ店に見えるんだけど、醸成されていく、音かになっていくといいなと思います。他の店とも色々また繋がったり、店として何かできたらいいなと思います。具体的なことは考えてないんですけど、あり続けるというのが一番嬉しいので、このテンションであり続けられたらいいなと思います。

(※沢上商店街は、1989年(平成元年)に金山総合駅ができてから店舗が減少し、現在は数件のみが営業されています。)

取材メンバー

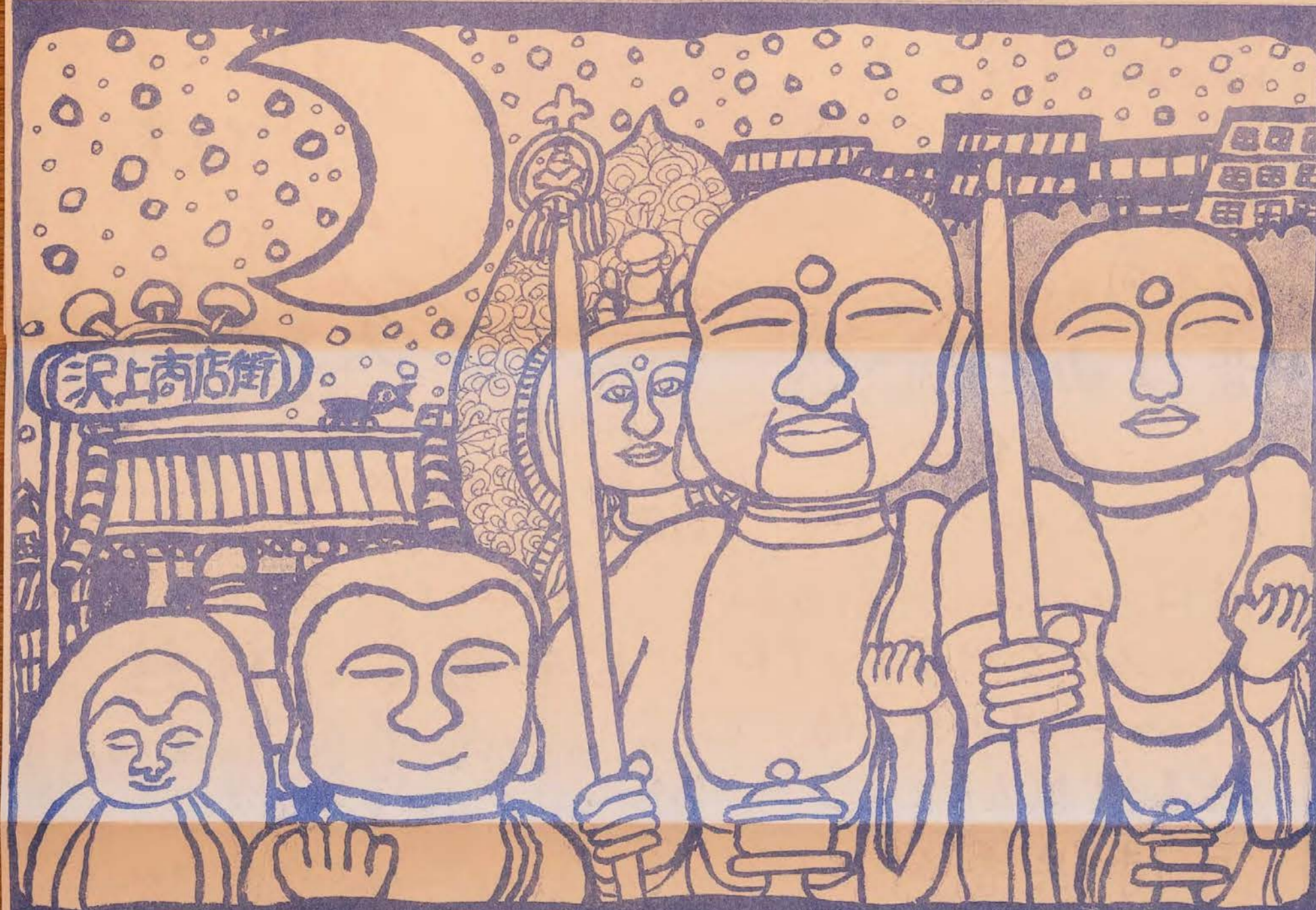
絵 | 兵藤 伶
写真 | きとてるえ
デザイン | 山口麻加
インタビュー編集 | 鈴木洋子
校正 | 半田 萌



I participated because I was interested in the catchphrase "Let's walk around the town and make a book(ZINE)" around Kanayama Station. I visited the historic temple KANGHOJI on the back side and listened to Okuriomadami's lecture. I felt the weight of history as I decided to do it.

MIRUKIKU 2024

CHRONICLE TEAM KANGHOJI



I participated because I was interested in the catchphrase "Let's walk around the town and make a book (ZINE)" around Kanayama station. I visited the historic temple "KANGHOJI" on the south side and listened to Okuri(modam)'s talk. I felt the weight of history as I decided to draw a picture.

Welcome Kanayama NAGOYA CITY JP
 金山駅周辺のまちを歩いて本を作ろう
 というキャッチフレーズに興味を覚えて参加
 しました。南側にある由緒ある観音寺
 というお寺を訪問して、御庫裡からお話
 聞き歴史の重みを感じることが出来ました。

私は20歳のとき、名古屋の損害保険会社に就職したんですけど、それをきっかけに、叔母が一人で頑張っていたこのお寺を継ぐことにしました。

昔は子どもたちがソフトボールをやるに1学年で1チームを作れるぐらいの子どもたちがいっぱい

今86歳ですから、もう66年です。

いたんですけど、今全部で2、3人

戦後だから、何もない。食べるものもみんな分けて合って。皆さんそういうことを、地元で続けてきていました。

しか小学生がいない。この町内ね。

それからやる機会がないから寂しいし、盆踊りをやろうかというので、初めは舞台を作ってやっていた。

金山という町は、人が住む

そのうちいろいろと整備して盆踊りを62年間務めました

ところじゃなくなってきています

昔は曲を流す

大きな松が

遠くからでも子供がたくさんやってきました。

3本あったんです。それも風が通らなくなって、3本とも枯れちゃいましたけど、

昔は、今みたいにレジャーがないからね、やっぱりみんなが集まってね。

まだ松があった頃は、お弁当を食べながら休憩

ここで食事して、月の出を待って、供養をしました。

している方もいらっちゃって。女性の方が、「ここへ来ると木があるから、

月待供養碑は、

パソコンで疲れた目が休まる」って言ってね、今でも、うちの庭がそんな風に

すごくいい言葉がいっぱい入っておりますけれども、また読んでくださると

少くとも憩いの場になればと、四季の花が咲くようにしているんです

味わいのあることが書いてあります。

よ。

妙香園

OCHA OUTSIDE

HOJAS NUEVAS!
KANAYAMA ZINE CLUB
NOV 9TH 2024
MEI ITOH
SHUTA TATSUMI
NACHI YAMAMOTO
AMI KONUMA
IZURU SHIMASAKI

HOJAS NUEVAS!

抹茶 MATCHA

「かっこよくピンツと抹茶でも点てたいな」と思っている、そのあなた。でもお茶の世界って、なんとなく敷居が高くて尻込みしていることあります。

そんなあなたには「野点」がおすすめ。野点とは野外で催す茶会のことですが、さらに尾張地域では農家が農作業の合間に野外でお抹茶を点てて飲む文化が今でもあるそうで、それを「野良茶」といいます。

お抹茶のイメージといえば、和服に正座で器をクルクル、茶菓子を一口で食べようものなら二度と敷居を跨がせてもらえないさそう厳格さ(※イメージ)がありますよね。



その点、野点や野良茶は自由です。なんせ民衆の文化ですから特に決まったルールはない。妙香園の田中社長によると、昔の人は水砂糖を齧りながら外でお抹茶を嗜んでいたそうです。粋の文化ここに極まれりですね。

畳の上で点てる前に、ぜひ身近なところで野点や野良茶をやってみてください。

野点 のだて NODATE

MYOKOEN

妙香園が作り出したブランド力
妙香園は、本組と呼ばれるブレンド製法によってお茶をお届けしている。様々なお茶の産地から仕入れた茶葉を茶匠がブレンドし、色や香り、そして味、それそれのいいところりとする。そして最高の一杯を届けることである。

お茶のハードルを下げるために
お茶を身近なものにするために様々な取り組みをしている。飲み方としては抹茶ラテのような、飲み場としてはメニュー作り、飲み物を出す場所としては、イトインの場所を設け、様々なアイデアを実現化してきた田中さんは、今後展開していきたい分野として、外国人観光客へのアプローチも、お茶の国際化を推進することとしている。

尾張、金沢、松江
田中さんによると名古屋はお茶の消費量が日本一らしい、それだけ聞くと、お茶の先生が多い地域なのだろうかと思ってしまう。そうではなく、買っている人が多いのは、お茶の先生は多くはない。これはお茶を嗜む一般人が多いということの表れなのだと、このことは尾張のお茶屋さんで聞くポイントらしい。

田中良知さん。大正5年創業の老舗お茶専門店「妙香園」の四代目社長を務めている。今回は忙しい時間を縫ってインタビューにお答えいただいた。社長として妙香園という歴史あるお店の伝統を守りつつ、さまざまなお客様にお茶を親しんでいただけるよう新しいものや会社の刺激になるものを柔軟に取り入れている。

田中良知さん

金山駅前 まちそだて会
どこに行くにも便利な金山駅は、便利であるが故に、乗り換えのための駅の駅として埋もれ、また大きな金山駅はまちを分断してしまっている。金山駅をまちを分断してしまっている。金山駅をまちを分断してしまっている。金山駅をまちを分断してしまっている。

金山の音楽
金山は音楽のまちである。金山駅周辺で路上ライブ、アスナルでの音楽フェス、そして名アイルがあることにより音楽好きの人が多い。多岐にわたる音楽活動が行われている。アスナルのフェスではプロアマ問わず様々なアーティストが参加し、イベント、クラシック、JAZZ、コーラスなど、ジャンルもスタイルも多種多様な音楽を気軽に楽しむことができる。

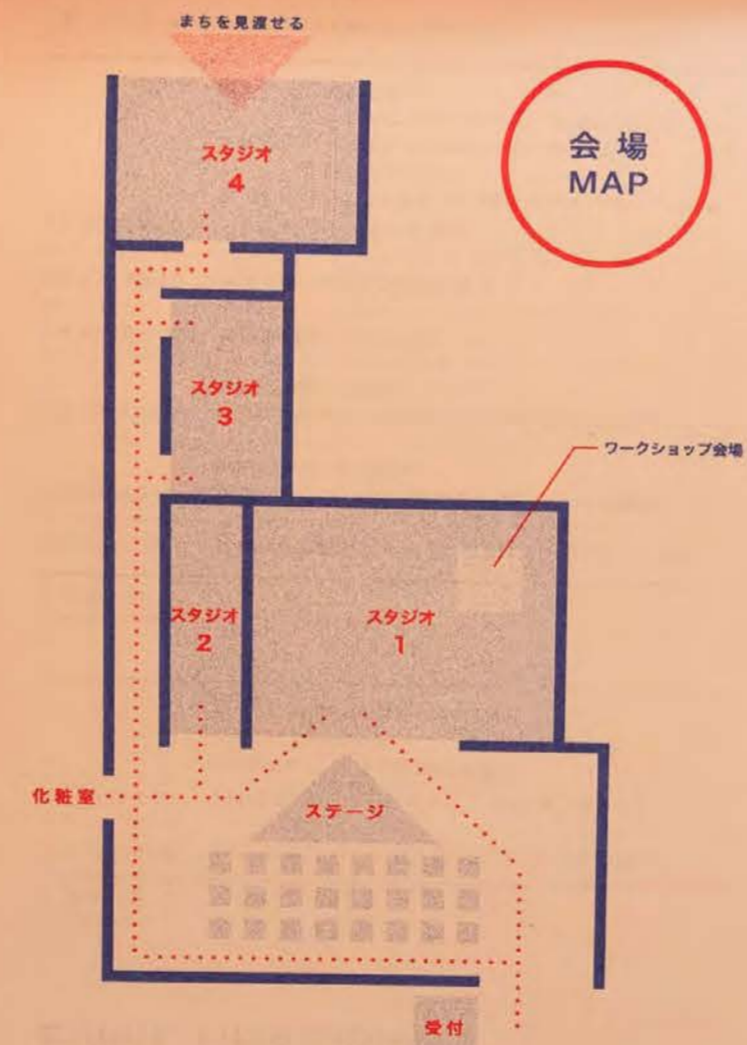
妙香園西廊のなりたち
使いみちが見つからなかつた、米、妙香園の西廊。妙香園西廊は、お茶のなまかまちで、昔平生け花などを趣味にする人たちが作品を発表する場として立ち上がった。お茶によってできた人々の繋がりが、お茶の枠から飛び出して交流を広げていくときの期待感や温かさが、今も妙香園の空気に残っている。お茶会から人々の会話がはずむ様子が想像できては、嬉しい。懐かしい、お茶が好きな人から、若い人からお客さんまで、みんなで一緒に会話を楽しもう。作品を持ち合わせて、妙香園西廊は、来年一月に終了してしまおうか、実は次の計画がある。何だろうか、とも楽しんでいる。

厳格な考えをお持ちの先代社長に育てられた反動で、人と会うことや人の集まることへ行くのが好きな外資的な性格に育ったと仰っていた。最近では会社にチャットGPTを流行らせたそう。「仕事が古い業界だからこそ、仕入れる情報は常に新しいものを」というのが田中社長のモットー。そのため、iphoneは常に最新。

田中良知さん

KANAYAMA

MYOKOEN



ZINEで出会う、楽しむ!
金山のまち。

かなやま じんくらぶ まつり

2024.11.9 (土) 11:00-19:00
金山南ビル美術館棟 3F
(旧名古屋ポスト美術館)

参加 無料
予約 不要

主催 ● アートリンク金山実行委員会
(名古屋市、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、公益財団法人名古屋文化振興事業団)
協力 ● 金山駅前まちでたて会、株式会社 妙香園、理想科学工業株式会社

Event Timetable

スタジオ

11:00-19:00 かなやまじんくらぶで制作したZINEの展示

11:00-18:30 ZINE作りワークショップ [対象年齢:4歳程度から]

- 1.かなやまじんくらぶのZINEを製本
 - 2.自由にZINEを制作
- 1,2とも作ったものは持ち帰れます。

ステージ

12:00-12:30 シャロン少年少女合唱団 合唱+K-POPダンス発表

13:00-13:40 かなやまじんくらぶ「建築チーム」リサーチ結果トーク
聞き手:河部圭佑(建築家)

13:40-14:00 when press + Manila Books & Gift ZINEミニトーク
聞き手:嶋崎出(印刷家)

14:30-15:00 角田波健太 ソロライブ

15:30-16:10 小鳥と象 ZINEの朗読とギター

16:30-18:00 アーティストトーク+座談会
登壇: 〇六印刷団(山口麻加(版画家)、嶋崎出(印刷家))、
河部圭佑(建築家)
座談会参加:田中良知(金山駅前まちそでて会会長)、
かなやまじんくらぶメンバー、会場のみなさま
聞き手: 服部浩之(キュレーター)

*多くのご来場があった場合には、入場を制限することがあります。

出演者プロフィール

シャロン少年少女合唱団
藤原歌劇団団員のオペラ歌手・船橋利先が2024年に設立。金山近郊の小学生から大学生が参加し、オペラ、演奏会、コンサートに出演している。

かなやまじんくらぶ「建築チーム」
建築学生有志が、「かなやまじんくらぶ」にて建築家の河部圭佑と共にまちのリサーチとドローイングの制作を実施。

when press + Manila Books & Gift
(ウエンプレス+マニラブックス&ギフト)
伏見のリノグラフィスタジオwhen pressの亀山佳津穂と新築にあるZINE専門店 Manila Books & Giftの桂井智彦、ハードコアバンク・春日井市出身、彼らのルーツをめぐるZINEを共同製作中。

角田波健太(つのだは・けんた)
日々の生活で見たり経験して感じた事を取り、「真実はchoose毎日のドラマにコーヒーと文化を」を胸に、1971年開店の金山にある喫茶店・ブラジルコーヒーを営んでいる。

小鳥と象(ことりとぞう)
ボーカリストのヨダアミとギタリストのトシロタカヒロによるアンサンブルデュオ。「暮らしに灯る音楽を」をコンセプトに、愛知を拠点としてギャラリーやカフェ、アートイベントなどで演奏している。

田中良知(たなか・よしとも)
金山駅前まちそでて会会長。大正5年創業、日本系専門店「株式会社妙香園」四代目社長。伝統とは挑戦の連続を持って創るものと考え、職人にあぐらをかくことなく新たな取り組みをし続ける。

かなやまじんくらぶ

【参加アーティスト】

山口麻加(やまぐち・あさか)
版画家、モノタイプやコラグラフなどの版画技法を用いて、紙やインクといった物質とイメージの関係性を追求する。名古屋市内でオルタナティブスペース「波止場」を主宰。2024年より嶋崎出と「〇六印刷団」を結成、ワークショップやプロジェクトを行う。

嶋崎出(しまさき・いずる)
メッセンジャー、印刷家。シルクスクリーンプリントとリノグラフィのスタジオ Daisy Print Worksを主宰しローカルアーティストやショップのポスターやオリジナルグッズのデザインやプリントを手がける。2024年より山口麻加と「〇六印刷団」を結成、ワークショップやプロジェクトを行う。

河部圭佑(かわべ・けいすけ)
建築家。横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA修了。アトリエ・ワンに勤務の後、2017年に河部圭佑建築設計事務所を設立。建築設計・インテリアデザインその他、インスタレーション・展覧会場構成・舞台美術など、芸術分野に関連する活動も行う。

【企画監修】

服部浩之(はっとり・ひろゆき)
キュレーター。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻准教授。青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC] 館長。アートセンターや教育機関を軸とし、公共性・ commons・横断性などをキーワードに様々な表現者との協働を軸にしたプロジェクトを展開。

かなやまじんくらぶ日記

- 2024/10/18 Fri. 出張ワークショップ「レコード展覧会を作る」@75ビルコーヒー喫茶棟 ●「メディアム制作し劇団」に苦戦する
- 2024/10/19 Sat. セミナーワークショップ「お気に入りの場所を調べる」@「メディアム」でつくる「金山の植物図鑑」の実験
- 2024/10/23 Tue. スタジオ作業 ●新たな視覚として「デザイナー」建築さんが加わり、打ち合わせ
- 2024/10/26 Sat. 大子キャットラーズツアー&ワークショップ「KANAYAMA OBJECTS」実験 ●12名がコラグラフ体験 ●アーティストがガイドになって街を歩く
- 2024/10/27 Sun. 出張ワークショップ@金山にむかひ「カワシエ」アーティストのズーゾーに混じってかなやまじんくらぶを案内 ●山口さん、町内の運動会でリレーに出場、その後金山へ
- 2024/10/29 Tue. 金山前ビルで展示ワークショップ ●嶋崎さんから骨折したとの連絡が入る ●服部さん、カーコバイトの集客実験?
- 2024/10/30 Wed. 抄音展「大子から金山前ビルへ」引継ぎ ●金山前ビルワークショップ
- 2024/11/1 Fri. リノグラフィが運び込まれる ●展示ワークショップ ●ZINEデザイン作業
- 2024/11/2 Sat. ZINEデザイン作業 ●リノグラフィの到着が運ラ・ラブル発生 ●ZINE印刷
- 2024/11/3 Sun.&11/4 Mon. (holiday) セミナーとZINE製本 ●展示づくり ●まだ続きしてない...

Event Timetable

スタジオ

11:00-19:00 かなやまじんくらぶで制作したZINEの展示

ZINE作りワークショップ

11:00-18:30 ZINE作りワークショップ (対象年齢:4歳前後から)
1.かなやまじんくらぶのZINEを製本
2.自由にZINEを制作
3.2とも作ったものは持ち帰ります。

ステージ

19:00-19:30 シャロン少年少女合唱団 合唱+K-POPダンス発表

19:30-19:40 かなやまじんくらぶ「展覧会」リサーチ結果トーク
聞き手:河部圭祐(展覧会)

19:40-14:00 when press + Manilla Books & Gift ZINEミニトーク
聞き手:嶋崎出(作家)

14:30-15:00 角田波留太 ソロライブ

15:30-16:10 小島と象 ZINEの相談とギター

16:30-18:00 アーティストトーク+座談会

会場:一六六印刷所(山口県)・(原宿)・嶋崎出(作家)・
河部圭祐(展覧会)
座談会参加:かなやまじんくらぶメンバー、会場のみなさま
聞き手: 河部圭祐、河部浩之(キュレーター)

*多くの会場があった場合は、入場も制限することがあります。

出演者プロフィール

シャロン少年少女合唱団
藤原歌劇団員のおべら歌手。配役制しが
2024年に設立。金山近所の小学生から大学
生が参加し、オペラ、演義会、コンサートに出
演している。

かなやまじんくらぶ「展覧会」
展覧会主催が「かなやまじんくらぶ」にて展
覧会の河部圭祐と共にまちのリサーチとドロー
イングの制作を実施。

when press + Manilla Books & Gift
(ウェブプレス+マニラブックス&ギフト)
休日のリソグラフィスタジオやwhen pressの集
山排書屋と新宿にあるGIVE専門店 Manilla
Books & Giftの社員智恵、ハーブコアバンク、
春日井市出身。自分のルーツをめぐるZINEを
共同製作中。

角田波留太(つのぶな けんと)

日々の生活で得た経験から感じた事を書く。
「真実はchoose毎日のドラマにコピーペースト文
化を」を胸に、1971年開店の金山にある喫茶
店「ブラジルコーヒー」を営んでいる。

小島と象(こじま とぞう)

ポーカーリストの当タアミとキタリストのシロタ
カヒロによるアンソングルデュオ。「暮らして打
てる音楽を。」をコンセプトに、未知な視点と
キャッチーなサウンド、アートイベントなどで演奏
している。

田山良樹(たやま りょうじゅ)

中山印刷所、そがて会館、大正5年開業。日本
最古の印刷会社。株式会社印刷所(旧印刷所)。伝承と
革新の両方を大切にする印刷会社。現在は、印刷に
加えて、様々な文化活動にも取り組んでいる。

かなやまじんくらぶ

〈参加アーティスト〉

山口麻加(やまぐち まか) 山形県、モノタイプやコラグラフィなどの版畫技
法を用いて、紙やインクといった物質とタイ
プの関係性を追求する。名古屋市内でガレタ
ナティアスペース「家止場」を主宰。2024年
より島根県と「一六六印刷所」を結成、ワーク
ショップやプロシヨックを行う。

嶋崎出(しまざき いずる)

メッセンジャー、印刷家、シルクスクリーンブ
リントとリソグラフィのスタジオ Daisy Print
Worksを主宰しローカルアーティストやシヨッ
プのホストやオリジナルカルタのデザイン
やプリントを手がける。2024年より山口県和
「一六六印刷所」を結成、ワークショップやブ
ロシヨックを行う。

河部圭祐(かべ けいすけ)

建築家、横浜国立大学大学院建築都市スケ
ルV-GSA修了、アトリエ・ワンに勤務の後、
2017年に河部圭祐建築設計事務所を設立。
建築設計・インテリアデザイン全般の他、インスタ
レーション、産業会議場、舞台美術など、異
分野に展開する活動も行う。

〈企画監修〉

服部浩之(はっとり ひろゆき)
キュレーター、東京藝術大学大学院映像研究
科メディア映像専攻准教授、株式会社入道 河
部浩之センター専務 [ACAC] 部長、アートセ
ンターや教育機関を軸とし、公共性、コミュニティ
性などをテーマにアートに集うな建築家との協
働を軸にしたプロシヨックを展開。

かなやまじんくらぶ日記

- 2024/10/18 Fri. 出張ワークショップ「レコード版画を作ろう」@プラジルコーヒー実
施 ●「メデイウム割がし刷り」に苦戦する
- 2024/10/19 Sat. セミワークショップ「お気に入りの場所を図解する」|サイアノタイプ
でつくる「金山の植物園鑑」?」実施
- 2024/10/23 Tue. スタジオ作業 ●新たな戦力としてデザイナー根津さんが加わり、打
ち合わせ
- 2024/10/26 Sat. 大ナゴヤツアーズツアー&ワークショップ「KANAYAMA OBJECTS」
実施 ●12名がコラグラフィ体験 ●アーティストがガイドになって街を
歩く
- 2024/10/27 Sun. 出張ワークショップ@金山にぎわいマルシェ ●アイドルのステージ
に選んでかなやまじんくらぶを宣伝 ●山口さん、町内の運動会で
リレーに出場。その後金山へ
- 2024/10/29 Tue. 金山南ビルで展示プランミーティング ●嶋崎さんから骨折したとの
連絡が入る ●服部さん、カーコバイク運搬案!?
- 2024/10/30 Wed. 妙香園坂スタジオから金山南ビルへ引っ越し ●金山南ビルシヨッ
プスペースでの作業開始
- 2024/11/1 Fri. リソグラフィが運び込まれる ●展示プランミーティング ●ZINEデザ
イン作業
- 2024/11/2 Sat. ZINEデザイン作業 ●リソインクの型番が違うトラブル発生 ●ZINE
印刷
- 2024/11/3 Sun. & 11/4 Mon. (holiday)
ゼミメンバーとZINE製本 ●展示づくり ●また校了していない...

Event Timetable

スタジオ

出演者プロフィール

シャロン少年少女合唱団
藤原章樹団員のおペラ歌手・能登利充が
2024年に設立、金山近郊の小学生から大
生が参加し、オペラ、演劇、コンサートに出
演している。

かなやまじんくらぶ

(参加アーティスト)

山口麻加(作曲家・編曲家)、
原田麻。モノタイプやコラージュなどの版画技
法を用いて、紙やインクといった物質とイメ

かなやまじんくらぶ

参加アーティスト | 一〇六印刷団(山口麻加(版画家)、嶋崎出(印刷家)、河部圭佑(建築家))
企画監修 | 服部浩之(青森公立大学 国際芸術センター青森館長、東京藝術大学大学院准教授)
デザイン協力 | 根津小春

THE RECORDS OF MAKING (Y)OUR ZINE

2024年11月9日 発行

発行 | かなやまじんくらぶ
主催 | アートリンク金山実行委員会
(名古屋市、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、公益財団法人名古屋文化振興事業団)
企画・運営 | クリエイティブ・リンク・ナゴヤ
企画コーディネート | 谷口裕子、半田萌
広報・運営 | 豊藤学、鈴村りえ、渡邊裕美、山影歩
総務経理 | 河合利枝、小林雅世
紙 | 佐藤友美

©アートリンク金山実行委員会 2024

か

謝辞

「かなやまじんくらぶ」を実施するにあたり、下記のみなさまはじめインタビュアーやアンケートに答えていただいた方、かなやまじんくらぶまつりに出演していただいた方、場所やものを貸していただいた方、広報やPRをしていただいた方、いろいろ相談にのっていただいた方など大変多くのみなさまにご協力いただきました。ありがとうございました！ 心から感謝申し上げます。

金山駅前まちそで会
金山商店街振興組合
観音寺
株式会社炒香園
金山にぎわいマルシェ
共立・名古屋共立共同事業体
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団
公益財団法人名古屋まちづくり公社
大ナゴヤツアーズ
TOUTEN BOOKSTORE
ブラジルコーヒー
理想科学株式会社
アートラボあいち
港まちづくり協議会

(敬称略・順不同)

